

平成 18 年度  
情報収集事業報告書  
第 2 号

# クォーター・レビュー

非鉄メジャーの  
2006 年第 1 四半期動向

平成 18 年 7 月

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

## はじめに

世界的な金属資源価格の高騰を受け、鉱物資源の大輸入国である我が国では原料資源調達が急務となっており、これら鉱物資源を安定的に確保するためには、その需給の状況・動向等を的確に把握することが不可欠である。

また、我が国の海外鉱山開発事業の円滑な推進を支援するために、マクロ的な需給動向のみならず、世界の鉱山・プロジェクト、探鉱開発の動向を常時注視し、企業活動の推移と傾向を分析調査することは、大変意義のあることと考える。

本報告書は、このような状況を踏まえ、国際金属研究会（銅、鉛・亜鉛、ニッケル）のマンスリーレポート等をベースにしたマクロな生産動向調査に加え、世界の非鉄メジャー企業のクォーターレポート、各国統計機関の発表等により経営・生産状況、探鉱開発等の動向をレビューし、「クォーター・レビュー」としてとりまとめたものである。

最後に、本報告書が関係各位の参考となれば幸いです。

平成 18 年 7 月

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構  
金属資源開発調査企画グループ

おことわり: 本報告書の内容は、必ずしも独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行っておりますが、本報告書の内容に誤りのある可能性もあります。本報告書に基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構及び執筆者は何らの責任を負いかねます。

クォーター・レビュー  
- 非鉄メジャーの 2006 年第 1 四半期動向 -

目 次

はじめに

. ベースメタルの国際市況と需給動向 .....	1
1. 銅 .....	1
2. 鉛 .....	4
3. 亜鉛 .....	7
4. ニッケル .....	10
. 世界の主要生産者の動向 .....	12
1. 銅企業の動向 .....	12
2. 亜鉛企業の動向 .....	14
3. ニッケル企業の動向 .....	15
. 今後の鉱山・製錬生産能力予測 .....	16
. 主要企業の 2006 年第 1 四半期動向レビュー .....	17
1. CODELCO .....	17
2. Phelps Dodge .....	19
3. BHP Billiton .....	20
4. Grupo Mexico .....	23
5. Rio Tinto .....	25
6. Freeport-McMoRan Copper .....	26
7. KGHM .....	29
8. Falconbridge .....	30
9. Antofagasta .....	32
10. Anglo American .....	33
11. Placer Dome .....	34
12. Inco .....	35
13. Newmont Mining.....	36
14. Teck Cominco .....	37
15. Peñoles .....	38

16. Aneka Tambang .....	39
. その他企業の動向、主要国の生産統計 .....	42
1. 豪州企業 .....	42
2. 中国企業 .....	55
3. カザフスタン企業 .....	56
. 主要国、主要鉱山の生産統計 .....	57
1. 主要国の生産統計 .....	57
(1) チリ	
(2) ペルー	
(3) ボリビア	
(4) メキシコ	
(5) 中国	
(6) カザフスタン	
2. 主要鉱山の生産統計 .....	60
(1) Grasberg 鉱山	
(2) Morenci 鉱山	
(3) Antamina 鉱山	

## I. ベースメタルの国際市況と需給動向

### 1. 銅

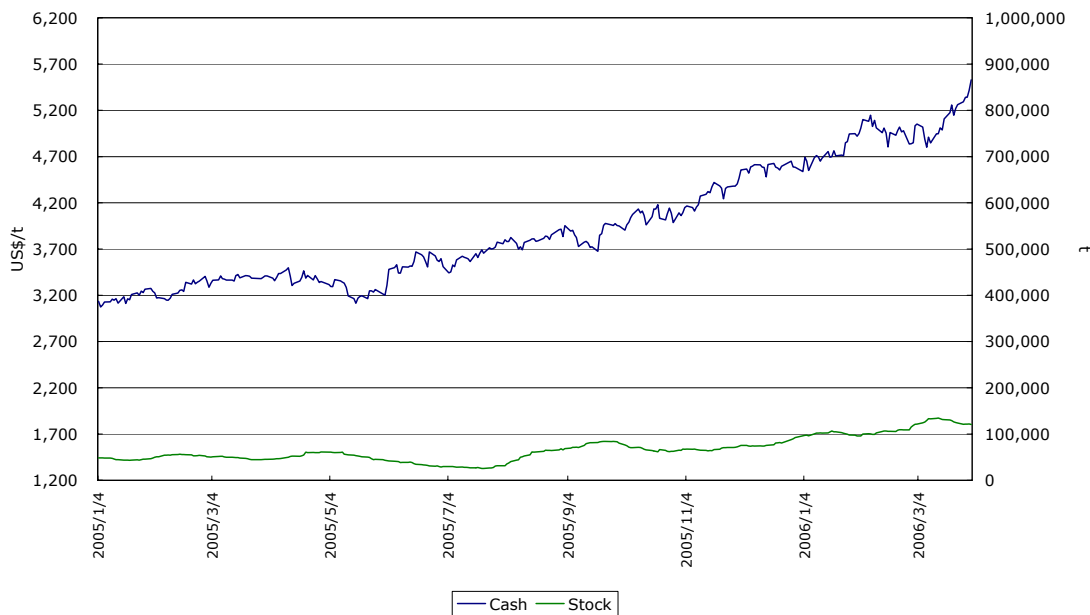
1. 銅のLME価格は、2005年末には、中国のショートポジション問題やインド製錬所の事故等の要因で上昇し4,500ドル台に。その後、投機資金の流入もあり、3月末には5,500ドル台を超えた。
2. 2006年1～3月の鉱山生産は前年同期比で0.7%減。地金生産は4.8%増。一方、消費は1.0%増。
3. 2006年第1四半期の世界の需給バランスは、前年同期の89千トン供給不足から64千tの供給過剰に。

#### (1) 国際価格(1月～3月)

1月～3月の銅国際価格は乱高下しながらも上昇傾向にあった。4,537USドル/tでスタートした1月のLME銅価格は、1月4日に最高値更新を記録しながらも乱高下していたが、その後1月10日と1月16日に4,700USドル台で記録更新しつつ4,600ドル台後半以上で推移、1月18日以降は常に4,700ドル台を記録した。さらに1月25日には4,800ドル台、1月27日には4,900ドル台と月後半に騰勢を強め、1月30日には1月最高値で史上最高値の4,948.50ドルを記録し、1月31日は4,919.50ドルで終了した。

4,949ドルでスタートした2月のLME銅価格は、2月2日に5,007.50ドル、2月3日に5,100ドルと5,000ドル台を大きく超えて急伸、7日には5145.50ドルの2月最高値を記録。その後2月16日には4,800ドル台まで下落した後上昇、2月22日には再び5,000ドル台を記録するなど、乱高下を繰り返し、2月28日は4,839ドルで終了した。

4,848ドルでスタートした3月のLME銅価格は、月前半は下降傾向、月後半は上昇傾向となった。3月3日に5,051ドルまで上昇した後、3月8日に3月の最低値4,801ドルまで下落した。その後は、ほぼ毎日上昇を続け、3月31日には史上最高値5,527.5ドルで終了した。



銅地金価格と在庫の推移

出典：LME

## (2) 需給(1～3月)

### 〈需要〉

2006年1～3月の銅世界消費は前年同期比1.0%増の4,118千tであった。世界消費は2005年12月1,316千t、2006年1月1,374千t、2月1,310千t、3月1,434千tと推移している。国別では、最大消費国の中国が6.4%減、2位米国が2.7%減、5位韓国が3.0%減だったものの、3位の日本が7.0%増、4位ドイツが7.4%増もあり、全体として微増した。

### 〈供給〉

2006年1～3月の銅鉱山生産（金属純分）は前年同期比で微減（0.7%減）の3,503tであった。鉱山生産は2005年12月1,407千t、2006年に入り減少し、1月1,190千t、2月1,087千t、3月1,226千tと推移している。鉱山設備稼働率は2006年1月83.6%、2月84.4%、3月85.8%と低い水準で推移している。国別では、3位ペルーが5.4%増、5位ロシアが0.5%増となったが、最大生産国のチリが前年同期並で微減、2位米国3.7%減、4位豪州が2.0%減、6位インドネシア31.2%と大幅減と世界的な減少傾向のため、全体として減少した。

2006年1～3月の地金生産は前年同月比4.8%増の4,182tであった。地金生産は2005年12月1476千t、2006年1月1,401千t、2月1,332千t、3月1,449千tと推移している。精錬所設備稼働率は2006年1月80.4%、2月84.5%、3月82.8%と比較的低い水準で推移している。国別では、2位チリで4.3%減、5位ロシアが前年同期並の微減となったものの、最大生産国となった中国で前年同月比20.1%と大幅増、3位日本6.8%増、4位ロシア2.7%増等世界的な増加により、全体として減少した。

### 〈需給バランス〉

2006年1～3月の銅需給バランスは64千tの供給超過であった。2005年12月に160千t

の大幅供給超過を記録した後、1月27千t、2月22千t、3月15千tと供給超過であるものの、減少傾向にある。季節調整後の需給バランスでは12月45千t、2006年1月41千t、2月50千t、3月59千tと供給超過で推移している。LME在庫は2005年末からの増加傾向が3月まで継続していたが、4月末に117.7千t、5月末現在では112.1千tと減少傾向に転じており、依然低い水準にある。

### 銅の需給状況

(単位:千t)

銅	2005					2006	対前年 同期比(%) 第4四半期
	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	2005年計	第1 四半期	
鉱山生産量	3,529	3,644	3,724	4,004	14,875	3,503	-0.7
地金生産量	3,989	4,058	4,102	4,293	16,425	4,182	4.8
一次地金生産量	3,484	3,535	3,558	3,736	14,320	3,646	4.6
二次地金生産量	505	523	544	557	2,105	535	5.9
消費量	4,078	4,187	4,142	4,087	16,465	4,118	1.0
需給バランス	-89	-129	-40	206	-40	64	-

※データは国際銅研究会の最新のものを使用しているが、合計等は必ずしも一致しない。

出典:国際銅研究会

### (3) 今後の見通し

国際銅研究会によると、2005年の需給バランスは、2004年の供給不足902千tから減少し64千tの供給不足となった。2006年は、244千tの供給過剰が予想され、4年ぶりに需給バランスはプラスとなる。2005年11月の予測に比べ、生産量、消費量ともに下方修正がなされている。鉱石生産は銅価高騰を背景に、チリ2.5%増、米国9.3%増、ペルー2.6%増、豪州8.0%増と世界的に増加が見込まれているが、インドネシアではGrasberg鉱山での供給障害が懸念されるため18.7%と大幅減が見込まれる。地金生産も銅価高騰及び鉱石生産増加を受けチリ8.4%増、中国7.3%増、日本10.1%増、米国6.7%増、と世界的に増加が見込まれている。

消費も中国で7.5%増、米国で1.8%増、EUが3.2%増、日本も1.9%の増と世界的に増加が見込まれている。

また、2007年についても55千tの供給過剰が予想される。

一方で、鉱山生産については、鉱山の新規プロジェクトは当面なく、短期的にも鉱山機械のタイヤなどの部品逼迫が生産能力の阻害要因とされており、生産が伸びないとの予想もある。

その他で鉱山生産に影響を与えられ考えられる要因としては、ボリビアを初めとする南米資源国での左派勢力の台頭と資源国有化の動き、Grasberg鉱山での先住民の鉱山会社への抗議で見られた様な地域住民問題、CODELCOでのストライキ(1月)等の好況を受けた利益配分を巡る労使問題が挙げられる。

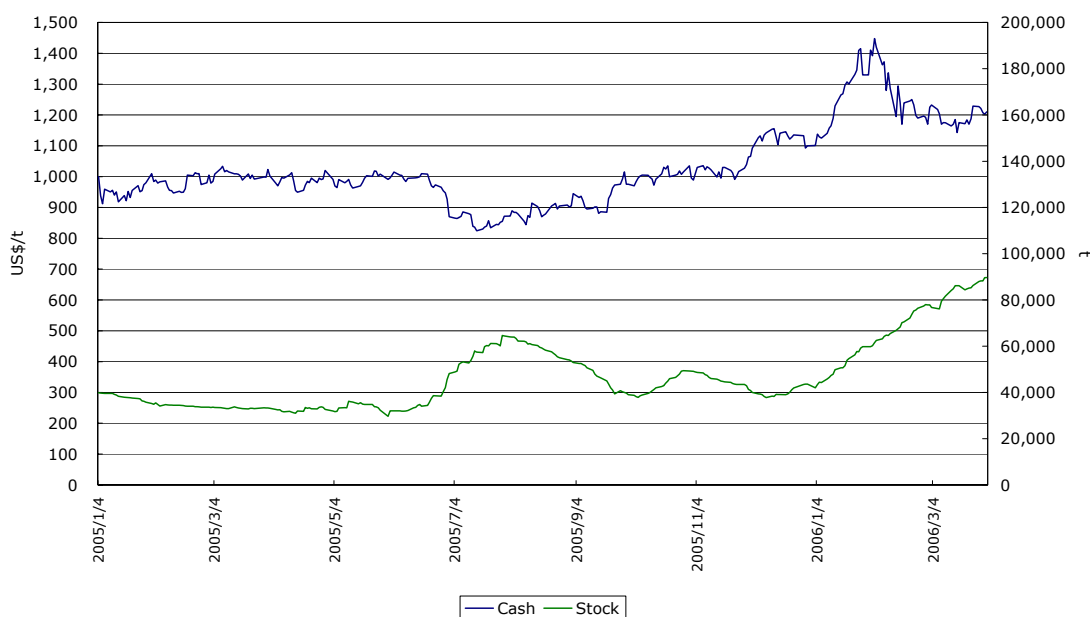
関係機関の予測に基づいた推定としては、銅価格は2005年の3,680US\$/tから2006年には5,466US\$/t、2007年には4,658US\$/tという推移になり、2006年の銅地金生産が17,888千t、消費が17,803千t、2007年の銅地金生産が18,784千t、消費が17,574千tと供給過剰の状態が継続する。

## 2. 鉛

1. 鉛の国際価格は、供給障害、需給のタイト化を受け、1,100US\$/t 台以上で推移し、2月初めには過去最高水準の 1,400US\$/t まで上昇した。その後は下落傾向にあり、3 月末には 1,200US\$/t 台で終了した。
2. 2005 年 1～3 月の鉱石生産は、前年同期比 10.1%増。地金生産は中国を中心として好調で、同 10.2%増。消費も中国が好調で、同 7.2%増。
3. 2006 年第 1 四半期の世界の需給バランスは緩和。

### (1) 国際価格(1 月～3 月)

LME 価格は、鉱山ストライキ、製錬所の一時操業停止といった供給障害及び需給のタイト化を受け、2006 年 1 月から引き続き高い水準でスタートし、2 月 2 日には史上最高値の 1,448US\$/t を記録した。その後は需給も緩和し、2 月 13 日には 1,100 US\$/t 台まで落ち込む等、乱高下を繰り返しながら、次第に下降し 3 月 31 日には 1,210 US\$/t で終了した。



鉛地金価格と在庫の推移

出典:LME



## (2) 需給(1～3月)

### 〈需要〉

2006年1～3月の世界消費は前年同月比で7.2%増の1,952.5千tであった。3位ドイツ、4位韓国が前年並、5位日本が10.5%減であったが、最大消費国の中国が30.2%と大幅増、2位米国が3.7%増により、全体として増加した。

### 〈供給〉

2006年1～3月の鉱山生産は前年同期比10.1%増の832.3千tであった。2位豪州が5.0%減、4位ペルーが3.8%減、であったが、最大生産国の中国が32.4%と大幅増、3位米国13.4%増、5位メキシコが1.8%増等により、全体として増加した。

### 〈需給バランス〉

2006年1～3月の地金生産は前年同期比10.2%増の1981.1千tであった。2位米国が2.0%減、3位ドイツが6.4%減、5位日本が前年並であったが、最大生産国の中国が35.4%と大幅増、4位英国が3.9%増等により、全体として増加した。

2006年1～3月の需給バランスは、いずれの月も供給超過となった。米国備蓄放出を考慮すると35.1千tの供給超過となり、2005年末からの供給超過の状況が継続している。LME在庫は2006年3月末約90千t、4月末約100千t、5月末約110千t、と増加傾向にある。

## 鉛の需給状況

(単位:千t)

鉛	2005					2006	対前年 同期比(%) 第4四半期
	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	2005年計	第1 四半期	
鉱山生産量	756	820	868	862	3305	832	10.1
地金生産量	1797	1882	1884	2013	7605	1981	10.2
米国備蓄放出	20	9	-6	11	36	7	-
消費量	1822	1882	1943	2014	7664	1953	7.2
需給バランス	-6	8	-64	9	-23	35	-

※データは国際鉛亜鉛研究会の最新のものを使用しているが、合計等は必ずしも一致しない。

出典:国際鉛亜鉛研究会

## (3) 今後の見通し

国際鉛亜鉛研究会によれば、鉛世界消費は、2006年に前年比2.4%上昇して、7,848千tになる予測である。これは主に初めて2,000千tを超えると予想される中国の消費が6.9%と従前の予想より伸びたためである。その他の国別消費は、欧州諸国と米国が2005年と同レベルと予測された一方、インド、メキシコ、台湾、タイ、およびトルコで増加と予測される。鉱山生産はウェスタンオーストラリア州のマゼラン鉱山の操業拡張が大きな影響を及ぼし、オーストラリアの鉛鉱山生産前年比10.5%増加と予測される。欧州では、アイルランド、ロシアおよびギリシアで増加の見込みである。さらに中国で6%増加の見込みであり、2006年の鉱山生産は世界全体で6.1%増加と予測される。2006年の鉛地金生産は世界全体で前年比3.8%増加し7,890千tに達すると予測される。中国の地金生産は一次生産、二次生産の最近の拡張により6.6%増加すると予測される。また、カザフスタン、インド

でも増加が見込まれる。中国からの西側諸国への鉛地金の総輸出は、490千tまで増加すると予測される。2006年の需給バランスは、米国備蓄放出を含めて67千tの供給過剰となる見込みである。

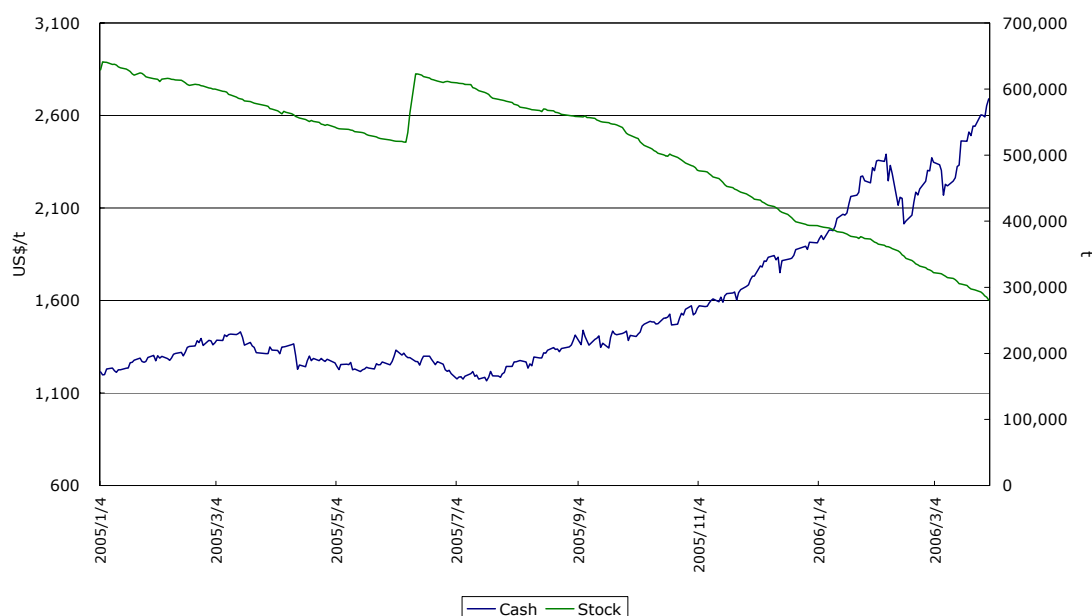
関係機関の予測に基づいた推定としては、鉛価格は2005年の985US\$/tから2006年には1,070US\$/t、2007年には875US\$/tという推移になり、2006年の鉛地金生産が7,883千t、消費が7,882千t、2007年の鉛地金生産が8,275千t、消費が8,185千tと需給がタイトな状態が継続する。

### 3. 亜鉛

1. 亜鉛の国際価格は、亜鉛需給のタイト化により、2006年第1四半期を通じて、上昇傾向にあり、3月末で2,700ドル台目前まで高騰した。
2. 2005年10～12月の鉱山生産は前年同期比5.9%減。地金生産は同3.5%減。消費は同4.6%増。最大消費国である中国で15.9%増であった。
3. 2006年第1四半期の世界の需給バランスは95千tの供給不足で、不足量が減少した。

#### (1) 国際価格(1月～3月)

1,912USドル/tでスタートした1月のLME亜鉛価格は、強気の価格推移が継続し、特に月後半にその勢いを増した。1月12日には2,000USドル台に突入、1月19日に2,100USドル台を、1月25日に2,200USドル台をクリアして上昇し続け、1月31日には2,318USドルと2,300USドル台を記録して終了した。US\$2,302/tでスタートした2月のLME亜鉛価格は、乱高下が激しい展開となった。2月7日まではUS\$2,300台で安定的に推移した後不安定となり、2月13日にはUS\$2,100台に下落、2月16日にはUS\$2,000台まで下落したが、その後反転上昇し、2月21日にUS\$2,100台に回復、2月24日にはUS\$2,200台まで回復し、2月28日にはUS\$2,303とUS\$2,300台まで上昇して終了した。2,301US\$/tでスタートした3月のLME亜鉛価格は、月前半は下降傾向、月後半は上昇傾向となった。3月8日に3月の最低値2,170US\$/tまで下落した後は、ほぼ毎日上昇を続け、3月31日には史上最高値2,690.5US\$/tで終了した。



亜鉛地金価格と在庫の推移

出典:LME

## (2) 需給(1～3月)

### 〈需要〉

2006年1～3月の世界消費は前年同期比で4.6%増の2,722.7千tであった。3位日本が2.0%減、5位ドイツが6.3%減となったが、最大消費国の中国が15.9%増、2位の米国が4.9%増、4位の韓国が7.0%増となり全体として増加した。

### 〈供給〉

2006年1～3月の鉱山生産は、前年同月比で、5.9%増の2,527.4千tであった。3位ペルーが9.2%減、5位カナダが8.4%減となったが、最大生産国の中国が24.0%と大幅増、2位豪州が6.0%増、4位の米国が1.9%増となり全体として増加した。

2006年1～3月の地金生産は、前年同月比で、3.5%増の2,620.0千tであった。2位カナダが0.4%減、4位日本が12.6%減、5位スペイン前年同月とほぼ同値となったが、最大生産国の中国が18.0%増、3位韓国が7.9%増となり全体として増加した。

### 〈需給バランス〉

2006年1～3月の需給バランスは、いずれの月も供給不足であった。この期間の需給バランスは米国備蓄放出を考慮しても95.1千tの供給不足となった。引き続き供給不足の傾向が継続しており、LME在庫量は2006年4月に前月から24千t減少して261千tとなり、5月に入ってからさらに22千t減少し、5月31日現在239千tと依然低い水準にある。

## 亜鉛の需給状況

単位:千t

亜鉛	2005					2006	対前年 同期比(%) 第4四半期
	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	2005年計	第1 四半期	
鉱山生産量	2387	2502	2603	2502	9979	2527	5.9
地金生産量	2531	2597	2514	2621	10267	2620	3.5
米国備蓄放出	3	10	8	8	29	8	-
消費量	2603	2666	2629	2780	10643	2723	4.6
需給バランス	-69	-59	-107	-151	-347	-95	-

※データは国際鉛亜鉛研究会の最新のものを使用しているが、合計等は必ずしも一致しない。

出典:国際鉛亜鉛研究会

### (3) 今後の見通し

2006年の亜鉛消費は世界全体で4.8%増加し11,190千tまで達すると予測される。中国が7.3%、インドが9.1%、日本が4.5%、韓国が4.4%と軒並み増加する見込みであり、アジア諸国の消費の伸びが最も影響力がある。米国の消費は2005年に低調だったが11.4%増加し、回復する見込みである。欧州では、フィンランド、ドイツ、ポーランド、ロシア連邦およびスペインで増加するが、ベルギー、フランスおよびイタリアで減少し、全体として1.4%増加となる見込みである。

2006年の亜鉛の鉱山生産は4.5%増加し、10,420千tまで達すると予測される。豪州の鉱山生産が8.9%増加、インドが10%増加の見込みである。ギリシア、アイルランド、ロシアおよびスウェーデンの増加受け、欧州全体の鉱山生産が8%増加する見込みである。

2006年の亜鉛地金生産は世界全体で4.3%増加し10710千tに達する予測である。主に中国が8.6%増加、インドの44%増加が影響し、豪州、ベルギー、カナダ、カザフスタン、韓国およびオランダでも増加の見込みである。

中国の亜鉛地金の総輸入は、285千tまで増加すると予測される。輸入の大部分が、カザフスタンからと推定される。

2006年の需給バランスは、米国備蓄放出を含めても437千tの供給不足となる見込みである。

関係機関の予測に基づいた推定としては、亜鉛価格は2005年の1,382US\$/tから2006年には2,619US\$/t、2007年には2,515US\$/tという推移になり、2006年の亜鉛地金生産が10,794千t、消費が11,137千tと供給不足だが、2007年には亜鉛地金生産が11,602千t、消費が11,592千tと供給過剰に転じる。

#### 4. ニッケル

ニッケルの国際価格は、14,000US\$/t～15,000US\$/tで推移しているが、上昇傾向にある。

2006年1～3月の鉱山生産は前年同期比9.1%減。地金生産は前年同期並。消費も前年同期並。

2006年1～3月の世界の需給バランスは2千tの供給過剰で、依然として需給がタイトな状況が続いている。

##### (1) 国際価格(1月～3月)

ニッケル国際価格は、2005年夏場より世界的なステンレス鋼ミルの減産などから軟調推移し、10月末には12,000\$割れとなったが、11月中旬より非鉄金属全般への投機資金流入などから回復し、その後も上昇傾向を辿った。2006年に入っても高値で推移し、1月下旬には2005年9月以来の15,000\$台となり、2月から3月は14,000\$台後半から15,000\$台で推移した。



ニッケル地金価格と在庫の推移

##### (2) 需給(2005年1～3月)

###### 〈需要〉

2006年1～3月のニッケル消費は324.0千tで、前年同期比0.2%の増となった。消費量第1位の中国は10.9%の増、第3位の米国は6.3%の増であったが、第2位日本は9.3%の減、第4位ドイツは1.2%の減、第5位韓国は11.1%の減であった。

###### 〈供給〉

2006年1～3月のニッケル鉱石生産は365.1千tで、前年同期比9.1%の増となった。最大生産国のロシアは3.0%の増、第2位カナダは31.1%の大幅増、第3位豪州は0.6%の増、第4位のインドネシア

は 23.5%の大幅増となり、第 5 位ニューカレドニアの 9.6%の減を補った。

2006 年 1～3 月の一次ニッケル地金生産は 325.9 千 t で、前年同期比 0.3%の増となった。最大生産国ロシアは 0.9%の微増、第 3 位カナダは 2.4%の増、第 5 位中国は 15.0%の増となったが、第 2 位の日本は 6.5%の減、第 4 位豪州は 5.9%の減であった。

#### 〈需給バランス〉

2006 年 1～3 月の需給バランスは、1.9 千 t の供給過剰となっている。

ニッケルの LME 在庫は、2005 年 5 月に 5,000t を割り込む低水準となったが、2005 年 8 月より増加傾向となり、12 月中旬には 30,000t 台となった。2006 年 1 月に入っても増加傾向が続いたが、2 月中旬より減少傾向へと転じ、32 千 t となっている。

ニッケルの需給状況

単位: 千 t

ニッケル	2005					2006 第1 四半期	対前年 同期比(%) 第4四半期
	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	2005年計		
鉱山生産量	335	343	342	353	1,374	365	9.1
地金生産量	325	321	312	325	1,283	326	0.4
消費量	324	319	294	308	1,245	324	0.2
需給バランス	1	2	18	17	38	2	-

※データは国際ニッケル研究会の最新のものを使用しているが、合計等は必ずしも一致しない。

出典: 国際ニッケル研究会

### (3) 今後の見通し

国際ニッケル研究会によると、2006 年の一次ニッケル地金生産は、カナダ、インドネシア等での増産を見込み、前年比で 6.1%増の 136.4 万 t、ニッケル消費は、中国、ロシア等の消費拡大を見込み、前年比で 7.4%増の 133.6 万 t で、需給バランスは約 2.8 万 t の供給過剰としており、2005 年に続き過剰バランスながら、需給はやや引き締まると予測している。

業界紙、メディア等によると、ステンレスの在庫調整が世界的に一巡し、ニッケルのステンレス向け需要は回復しており、第 3 四半期頃まではステンレス需要は好調との見方が強い。さらに、航空機やプラントなどに使用されるスーパーアロイ向け需要も活発であり、ニッケル需要は今後も堅調と見込まれる。一方、供給サイドについては、インコ社他大手ニッケル生産者を巡る買収合戦が繰り広げられていることや、来年後半に生産開始が見込まれていた新規開発プロジェクトの進展の遅れなど、今後の生産態勢が見通しにくい状況となっており、ニッケル需給は今後もタイトとの見方が強い。

ニッケル価格については、インコ社サドベリー事業所での労使交渉に係るストライキ懸念などが材料となり、最高値更新が続いてきた。労使交渉決着の見通しがつきストライキは回避されたものの、投機的要因は依然強く、さらに LME 在庫も年初の約半分にまで減少していることなどから、ニッケル価格は、当面 20,000\$前後の最高値圏で推移するとの見方が強い。一方、先高感から在庫を積み増した需要家もいるため、短期的には価格は下落するとの見方もある。

## Ⅱ. 世界の主要生産者の動向

### 1. 銅企業の動向

2006年第1四半期の生産実績を公表した主要生産者13社の銅鉱山生産は、合計189万t、前年同期と比べて約9.1万tの減産(4.6%減)の結果となった。13社のうち、増産となったのは3社のみで、残りの10社は減産となっている。また、前期である2005年第4四半期との比較で見ると、全体で41万tの減産(18%減)の結果となり、全ての生産企業が減産の結果となった。

2006年第1四半期で前年同期比が増となった3社のうち、最大の増産となったのは、BHP Billiton社(英豪)で、7.0万tの増(27.8%増)となった。これは、主にWMC社買収により獲得したOlympic Dam(豪)の生産が、昨年6月期から加わったことによるものである。ただし、前期である2005年第4四半期と比較した場合、Olympic Dam(豪)他の低品位化、鉱石処理能力低下などにより、約3%の減産となっている。

一方、最大の減産となったのは、Freeport McMoran社(米)で、2005年第1四半期の15.2万tに対し、2006年第1四半期10.0万tと、5.2万tの減産(34%減)となった。主な要因は鉱石品位の低下(2005年平均品位1.14%、2006年平均品位0.72%)と、回収率の低下(2005年89.6%、2006年82.5%)と発表されている。

主要な生産者の2006年第1四半期の生産動向として、世界最大の銅生産者であるCodelco社(チリ)は、前年同期比3.7万tの減産(8.9%減)であった。これは主にAndina及びEl Teniente鉱山における鉱石の低品位化により生産量が低下したことによるものであるとしている。

その他、Phelps Dodge社(米)は、前年同期比1.9万tの減産(7.6%減)の22.8万t、Grupo Mexico社(メキシコ)は、2005年8月に傘下のAsarco社の分離が影響し、大きく4.2万t減(20.7%減)となっている。一方、Rio Tinto社(英)は、Grasberg鉱山(インドネシア)における鉱石の低品位化により減産(54%減)となったものの、Escondida(チリ)鉱山の生産量が鉱石の高品位化により18%増となったことで、全体では僅かながら前年同期比0.8万tの増産(4.4%増)の結果となった。

なお、2006年第1四半期において、主要銅生産会社に関係した買収の動きがあった。金生産世界第3位のBarrick Gold社(加)が、2006年3月に、同じくカナダに本社を置き、2005年の銅生産量が約14万tであったPlacer Dome社を買収しており、これに伴い、2006年第1四半期からBarrick Gold社が銅生産者としての名前を連ねている。

2006年第1四半期終了時点の主要銅鉱山生産者の生産実績(精鉱中銅金属量及びSX/EWカソード生産量)は次表のとおりである。



主要銅鉱山生産者の生産実績

(単位:t)

会社名 (本国所在地)	2004年 第4四半期	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期	前年同期比 (%)
Codelco(チリ)	541,000	414,000	399,000	449,000	570,000	377,000	-8.9%
BHP-Billiton(英豪)	265,800	249,600	269,800	308,900	328,400	319,100	27.8%
Phelps Dodge(米)	259,493	246,664	239,225	232,421	231,013	227,838	-7.6%
Grupo Mexico(メキシコ)	221,894	202,535	215,539	185,804	181,318	160,564	-20.7%
Rio Tinto(英)	204,900	188,200	190,100	195,400	210,700	196,500	4.4%
Freeport McMoran(米)	192,200	152,200	137,100	156,300	214,800	100,400	-34.0%
KGHM Polska(ポーランド)	139,460	130,776	133,538	147,145	148,796	136,345	4.3%
Falconbridge(加)	133,800	116,834	115,349	111,335	120,900	116,040	-0.7%
Norilsk Nickel(ロシア)	113,000	113,000	112,000	113,000	114,000	109,000	-3.5%
Antofagasta(英)	81,515	73,209	66,880	71,454	76,300	66,200	-9.6%
Barrick Gold(加)	42,356	41,277	40,823	39,462	41,398	32,659	-20.9%
Newmont(米)	40,993	24,721	39,071	50,170	28,970	22,544	-8.8%
Inco(加)	29,694	32,648	26,632	26,449	34,814	30,206	-7.5%
13社計	2,266,105	1,985,664	1,985,057	2,086,840	2,301,409	1,894,396	-4.6%

注1) 2005年第4四半期以前のデータは、最新報告書で改定されたデータが公表されたものを除き、前回以前の報告書による

注2) Grupo Mexico分は、2005年第3四半期以前はAsarco社分含む(2005年8月分離)

注3) Barrick Gold分の2005年第4四半期以前分はPlacer Dome社分を計上(2006年3月にPlacer Dome社を買収)

## 2. 亜鉛企業の動向

2006年第1四半期の鉱山生産が公表されている主要亜鉛鉱山生産者(7社)、その他の2005年の上位生産者及び中国を対象とした。公表されている主要亜鉛鉱山生産者と中国の亜鉛鉱山生産は13.7%減であった。

最大生産者の主なところでは Teck Cominco は主要な Red Dog 鉱山の生産がほぼ横ばい、Antamina 鉱山が減産であり6.8%減、2位 Zinifex は Century 鉱山の選鉱設備増強もあり9.9%増、5位 Vedanta はインドでの増産を受け26.3%と大幅増となっている。3位 Falconbridge、4位 Glencore は第1四半期の鉱山生産が公表されていない。他の公表されている鉱山生産者については7位 Boliden が2.5%増、10位 Breakwater が14.9%減、11位 Penoles が1.1%増、12位 BHP Billiton が12.1%減と全体的に減少傾向にある。他方、中国の亜鉛鉱山生産は24%と大幅に増加している。

### 主要亜鉛鉱山生産者の生産実績

単位:千t

	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2005年 合計	2006年 第1四半期	前年 同期比(%)	出典
1 Teck Cominco	161	162	180	154	657	150	-6.8	1
2 Zinifex	134	151	146	153	585	148	9.9	1
3 Falconbridge	117	130	120	87	454	-	-	1
4 Glencore	-	-	-	-	451	-	-	2
5 Vedanta	99	114	106	127	446	125	26.3	1
6 Xstrata	-	-	-	-	351	-	-	2
7 Boliden	87	80	87	88	341	89	2.5	1
8 Anglo American	154		170		324	-	-	1
9 Volcan	-	-	-	-	287	-	-	2
10 Breakwater	75	89	57	53	273	64	-14.9	1
11 Penoles	53	53	52	54	212	53	1.1	1
12 BHP Billiton	32	28	29	24	114	28	-12.1	1
13 中国	520	633	695	652	2,500	645	24.0	3
12社+中国の計	1,509	1,517	1,728	1,477	6,995	1,302	-13.7	

出典 1:各社ホームページ、2:Raw Material Data、3:国際鉛亜鉛研究会

### 3. ニッケル企業の動向

主要なニッケル生産企業(7社)と中国を対象としている。最大手である Norilsk のニッケル生産は各四半期 60 千 t 程度で小幅に推移しており、2006 年第 1 四半期の生産量は前年同期比 1.7%増であった。2 位の Inco は 9.9%増、3 位の BHP Billiton は WMC の買収により取得したニッケル資産 Nickel West の増産により 93.3%と大幅増であった。4 位 Falconbridge、5 位 Eramet、6 位 Antam、7 位 Anglo American については 2006 年第 1 四半期の生産量が公表されていない。

#### 主要ニッケル鉱山生産者の生産実績

単位:千t

	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2005年 合計	2006年 第1四半期	前年 同期比(%)	出典
1 Norilsk Nickel	59	61	61	62	243	60	1.7	1
2 Inco	54	56	51	59	219	59	9.9	1
3 BHP Billiton	21	32	44	49	146	40	93.3	1
4 Falconbridge	21	13	13	11	58	-	-	1
5 Eramet	-	-	-	-	60	-	-	2
6 Antam	-	-	-	-	55	-	-	2
7 Anglo American	13		14		27	-	-	1
中国	13	17	14	16	60	16	20.3	3
7社+中国の計	174	185	190	203	867	175		

出典 1: 各社ホームページ、2: Raw Material Data、3: 国際鉛亜鉛研究会

### Ⅲ. 今後の鉱山・製錬生産能力予測

国際銅研究会は、四半期ごとに改定している世界の銅鉱山・製錬一覧の 2006 年 6 月版を発表した。これは、2006 年 3 月から 2006 年 6 月までに発表された変化を反映したものである。

2009 年までに計画されている世界の銅鉱山・製錬能力

(単位: 銅金属量千t)

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	05/09年 増加量	05/09年 年増加率
SX-EW	( 3,094) 3,117	( 3,309) 3,283	( 3,632) 3,705	( 4,194) 4,141	( 4,503) 4,437	1,320	9.2%
精鉱	( 13,484) 13,484	( 13,605) 13,602	( 13,975) 13,971	( 14,646) 14,475	( 15,063) 15,212	1,728	3.1%
鉱山計	( 16,578) 16,601	( 16,913) 16,884	( 17,607) 17,676	( 18,840) 18,616	( 19,566) 19,649	3,048	4.3%
溶錬	( 16,217) 16,244	( 16,746) 16,602	( 17,038) 16,990	( 17,301) 17,217	( 17,596) 17,476	1,232	1.8%
電解精錬	( 16,362) 16,425	( 16,809) 16,731	( 17,173) 17,176	( 17,372) 17,473	( 17,595) 17,828	1,403	2.1%
精錬計	( 20,202) 20,268	( 20,865) 20,711	( 21,558) 21,584	( 22,321) 22,324	( 22,853) 22,980	2,712	3.2%

( )は2006年2月発表の数字

2006 年 2 月時と比べて、期間途中の増減はあるものの、2009 年に時点における銅鉱山能力は若干の上方修正となった。2009 年における鉱山生産能力は約 19.6 百万 t となるのが計画されており、2005 年と比べて 18.4% 増の 305 万 t (精鉱: 173 万 t、SX-EW: 132 万 t) となる見込みで、2005 年から 2009 年までの 4 年間で鉱山生産能力は、年率 4.3% (精鉱: 3.1%、SX-EW: 9.2%) 増加する見込み。

溶錬生産能力では、2006 年 2 月時と比べて、全体的に下方修正された。2009 年における溶錬生産能力は 17.5 百万 t に達する見込みで、2005 年から 2009 年までの 4 年間で溶錬生産能力は、合計で約 123 万 t 増加する見込みである。溶錬生産においては当初 2 年間 (2006 年～2007 年) の伸びが大きい。4 年間全体の年率は 1.8% 増加となり、精鉱の供給能力増加を下回るものとなっている。ただし、2006 年、2007 年の年増加率は 4.6% となり、精鉱供給の年増加率 3.6% を上回る見込みである。また、最近の低い溶錬稼働率が上がるのが予想され、追加的な精鉱生産を処理するために十分な溶錬能力はあると見込まれる。

精錬生産能力では、2005 年 2 月時と比べて 2006 年は下方修正されたものの、2007 年以降は若干上方修正された。2009 年における精錬生産能力は 13% 増の 23.0 百万 t に達する見込みで、2005 年から 2009 年までの 4 年間で精錬生産能力は、約 271 万 t 増加、年率 3.2% 増加することが見込まれる。4 年間で電気精錬は 140 万 t、EW は 132 万 t 増加し、それぞれ電気精錬は溶錬増加率を僅かに上回る年 2.1% 増、EW は年 9.2% 増となる見込み。

これらの計画された能力拡張には、現存する鉱山・プラントの管理、メンテナンス、一時的生産削減等で変動する部分 (Swing Capacity) は含まれていない。国際銅研究会の調査では、2006 年 2 月時と比べて、この変動部分 (能力未使用部分) は鉱山で極僅かとなり、溶錬では 18.0 万 t、精錬では 37 万 t の減少と変化はない。

## IV. 主要企業の 2006 年第 1 四半期動向レビュー

### 1. CODELCO

- ・ 2005 年の売上は前年比 27.9%増の 104.91 億ドル、税引前利益は 48%増の 49.01 億ドル、純利益は 60.0%増の 17.8 億ドルを記録した。いずれも過去最高額である。
- ・ 銅生産量は、前年同期比 2.3%減の 377 千 t となった。CODELCO Norte デイビジョンで 4 千 t、Salvador デイビジョンで 2 千 t の増産があったものの、Andina デイビジョンで 4 千 t、El Teniente デイビジョンで 12 千 t の減産となった。直接コストは前年同期に比べメモリブデンクレジット効果が薄れ -8.1 ¢ /lb から 23.7 ¢ /lb に大幅に上昇した。

#### (1) トピックス

- ・ 2005 年暮れから 2006 年 2 月にかけて CODELCO 下請け労働者が特別手当を要求して断続的にストライキを実施するも生産には影響はなかった模様。
- ・ 1 月 10 日経営審議会は Gaby 鉱床開発を承認した。開発費は 8.98 億ドル、開発期間は 23 か月で 2008 年 1 月から生産を開始する。年産量は 150,000t でメインライフは 14 年の計画である。
- ・ 2004 年 5 月から拡張工事を行っていた Chuquicamata 鉱山 Mina Sur の生産準備が整い本格操業に入った。SX-EW カソード生産量は 120,000t/年の計画である(1 月)。
- ・ 新政権発足に伴い、経営審議会メンバーおよび総裁の更迭が行われ、新総裁には元文部大臣の Jose Pablo Arellano 氏が就任した(3 月)。
- ・ 2005 年 5 月の中国 Minmetals との融資買鉱契約に基づき同社から 4.4 億ドルが支払われた。15 年間にわたり 55,570t/年(銅金属純分)を Minmetals 供給するもので 2006 年 6 月に最初の船積みが行われる予定である(3 月)。

#### (2) 財務状況

(単位:百万ドル)

	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期	2005 年 第 3 四半期	2005 年 第 4 四半期	2006 年 第 1 四半期
売上高	2,255	2,497	2,611	3,128	3,111
営業利益	1,149	1,303	1,101	1,704	1,682
当期損益	389	412	387	592	624

(3) 生産状況

1) 主要鉱産物生産状況

公表データなし

2) 主要保有鉱山の生産状況

(単位:千t、金属純分)

ディビジョン名	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
CODELCO Norte (100%)	186	208	247	324	190
Salvador (100%)	15	19	21	23	17
Andina (100%)	62	62	58	66	58
El Teniente (100%)	97	114	98	129	85
El Abra (49%)	26	25	24	28	27
キャッシュコスト (¢/lb)	-8.1	-1.7	6.0	11.6	23.7

注 1) 2005年 第2四半期以降のキャッシュコストは累積平均値

注 2) 山元キャッシュコスト(G1コスト)がマイナスになっているのは、モリブデンクレジット効果により銅生産コストが大幅に低減されたことによるもので、見掛け上の計算値をそのまま表記しているもの。

## 2. Phelps Dodge

・2006年第1四半期純利益は333.8百万ドルと、前年同期比の13.7%の減少。

### (1) トピックス

- ・第1四半期のキャッシュフローは533.3百万ドルと前年同期316.1百万ドル、前期470.6百万ドルを大きく上回った。
- ・Columbian Chemicals 社、North American Magnet Wire Assets 社、High Performance Conductors Business 社を売却、総売却益約716百万ドルのうち、2006年第1四半期には約699百万ドルを獲得した。
- ・Phelps Dodge 社は、さらに300百万ドルを環境保全及び改善活動のため寄付した。

### (2) 財務状況

(単位:百万ドル)

	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
売上高	1,886.5	2,151.6	2,359.8	2,255.6	2,224.6
営業利益	535.8	173.7	567.9	504.0	574.2
当期損益	386.7	682.3	366.1	171.3	333.8
探鉱費	17.0	26.7	27.1	49.1	29.9

### (3) 生産状況

#### 1) 主要鉱産物の生産状況

(金属純分)

鉱産物	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
銅鉱石(千t)	96.4	84.8	85.0	80.0	86.8
銅地金(千t)(SX-EW)	149.4	153.6	147.5	150.5	139.8
モリブデン鉱石 (百万ポンド)	14.7	16.7	16.4	14.5	17.2

※権益比率分のみ。short tons で公表されているものを1 short ton=0.9072t で換算。

#### 2) 主要保有鉱山、精錬所の生産状況

(単位:千t、金属純分)

鉱山名、製錬所名	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
Morenci(EW)	71.0	79.4	78.7	79.3	72.4
Bagdad(Conc)	23.1	21.1	18.9	13.8	12.2
Bagdad(EW)	2.2	3.4	4.1	4.6	5.0
Sierrita(Conc)	17.7	16.3	15.2	15.9	18.1
Sierrita(EW)	1.8	1.7	1.7	1.5	1.5
Miami/Bisbee(EW)	2.4	3.1	2.9	2.8	2.4
Chino/Cobre(Conc)	13.0	9.6	11.2	12.2	14.0
Chino/Cobre(EW)	13.1	12.8	12.1	11.2	10.3
Tohono(EW)	0.5	0.6	0.5	0.5	0.7
Tyrone(EW)	9.4	9.9	8.7	8.7	7.2
Candelaria (Conc)	42.6	37.7	39.7	38.1	42.5
Cerro Verde(EW)	23.9	17.2	13.0	12.9	12.2
El Abra(EW)	27.3	25.4	25.8	28.9	28.0

※権益比率分のみ。short tons で公表されているものを1 short ton=0.9072t で換算。

### 3. BHP Billiton

- ・ニッケル(第1四半期 40,000t、3月末までの1年間 133,300t)、銅(同 319,100t、同 956,400t)、アルミニウム(同 340,000t、同 1,018,600t)は、記録的な生産となり、それぞれ、前年同期比 122%、25%、1%増加。
- ・Hillside(南アフリカ)、Escindida(チリ)、Cerrejon Coal(コロンビア)は、記録的な生産となる。
- ・西オーストラリア州の鉄鉱石、ニッケル生産は、ハリケーンと雨季の影響で、一時的に操業が停止した。

#### (1) トピックス

・諸材料費等のコスト高が、世界的な鉱物資源の力強い需要に対応するための BHP Billiton 社の供給能力を圧迫している。技能労働者不足、設備・機材の不足、米ドルに対する豪ドル高がコストを押し上げている。これらが予算内での供給・開発プロジェクトの実施を制約要因となっているが、西オーストラリア州の一部のプロジェクトを除いて、主要プロジェクトは、ほぼ計画通りの進捗状況である。

#### (2) 財務状況

(単位:百万 US\$)

	2004年6月末 (6ヶ月)*1	2004年12月末 (6ヶ月)	2005年6月末 (6ヶ月)*2	2005年12月末 (6ヶ月)
売上高	16,550	15,207	15,900	18,172
営業利益	2,017	2,953	3,056	4,364
探鉱費	261	199	334	348

\*1)2003年7月~2004年6月の12ヶ月分から2003年7月~2003年12月の6ヶ月分を差引いた数値

\*2)2004年7月~2005年6月の12ヶ月分から2004年7月~2004年12月の6ヶ月分を差引いた数値

#### (3) 生産状況

##### 1) 主要鉱産物の生産状況

(金属純分)

鉱産物	2005 第1四半期	2005 第2四半期	2005 第3四半期	2005 第4四半期	2006 第1四半期
銅鉱石(千t)	186.0	199.2	213.8	221.4	217.3
銅地金(千t)	63.6	70.6	95.1	107.0	101.8
鉛鉱石(t)	80,899	64,652	64,873	77,187	68,754
亜鉛鉱石(t)	32,388	28,204	29,147	23,928	28,419
ニッケル地金(千t)	20.8	31.8	44.1	49.0	40.2
モリブデン鉱石(t)	431	492	573	772	632
金(ounce)	32,152	31,882	53,666	54,700	52,095
銀(千 ounce)	14,044	11,881	11,362	13,866	11,655
マンガン鉱石(千t)	1,297	1,418	1,387	1,278	1,226
マンガン合金(千t)	197	156	139	165	173
フェロクロム(千t)	240	178	-	-	-
アルミナ(千t)	1,092	1,054	1,028	1,012	1,075
アルミニウム(千t)	332	321	334	344	340
鉄鉱石(千t)	23,988	25,296	23,601	24,610	22,499
原料炭(千t)	8,938	9,570	8,986	8,973	8,460
燃料炭(千t)	20,079	22,703	24,010	21,287	18,672
石油等(百万 boe)*3	28.49	33.13	31.38	27.93	26.01
ウラン(U <sub>3</sub> O <sub>8</sub> t)		415	1,088	1,070	913

\*3)boe: 石油換算バレル



## 2) 主要保有鉱山、製錬所の生産状況

鉱山名、製錬所名	2005	2005	2005	2005	2006
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期
Escondida 鉱山(銅 000t)	135.4	154	168.6	169.0	168.2
Antamina 鉱山(銅 000t)	29.9	29.9	27.9	34.3	32.9
Tintaya 鉱山(銅 000t)	20.7	15.3	17.3	18.1	16.2
Escondida(銅カソード 000t)	21.8	21.4	19.6	20.0	15.4
Cerro Colorado(銅カソード)	29.8	24.6	14.5	21.5	28.1
Tintaya(銅カソード 000t)	9.6	6.4	9.7	9.9	9.1
Pinto Valley(銅カソード 000t)	2.4	2.1	2.2	2.1	2.1
Olympic Dam 鉱山 (銅カソード 000t)	-	16.1	49.1	53.5	47.1
Cannington 鉱山(鉛 t)	80,899	64,652	64,873	77,187	68,754
Cannington 鉱山(亜鉛 t)	15,241	12,676	14,188	18,780	20,885
Antamina 鉱山(亜鉛 t)	17,147	15,528	14,959	5,148	7,534
Escondida 鉱山(金 oz)	25,987	20,774	19,194	19,200	17,877
Tintaya 鉱山(金 oz)	6,165	4,066	8,048	8,200	8,032
Olympic Dam 鉱山(金 oz)		7,042	26,424	27,300	26,186
Escondida 鉱山(銀 000oz)	650	658	795	945	714
Antamina 鉱山(銀 000oz)	830	749	642	859	865
Tintaya 鉱山(銀 000oz)	181	129	167	168	138
Cannington 鉱山(銀 000oz)	12,383	10,283	9,579	11,672	9,693
Olympic Dam 鉱山 (銀 000oz)*1	-	62	179	222	245
CMSA(ニッケル 000t)	13.3	13.7	12.8	13.0	12.9
Yabulu 鉱山(ニッケル 000t)	7.5	8.9	6.1	5.9	7
Nickel West(ニッケル 千 t)		9.2	25.2	30.1	20.3
Antamina 鉱山(Mo)	431	492	573	772	632
Olympic Dam 鉱山(U <sub>3</sub> O <sub>8</sub> t)	-	415	1,088	1,070	913
Mt. Newman JV	6,475	6,493	6,234	6,166	5,884
Yandi JV	8,713	8,943	8,409	8,372	8,561

### (4) 開発

#### ① アルミナ

・Worsley アルミナ・プロジェクト(BHP Billiton 社 86%、オーストラリア)

アルミナ生産能力を 250,000t/年増強し、3.5 百万t/年規模に拡張する投資額 192 百万米ドルのプロジェクト。2006 年第1四半期は、71 工程中 44 工程が完了。

#### ② 銅

・Escondida 硫酸浸出プラント(BHP Billiton 社 57.5%、チリ)

銅カソード 180,000t/年を生産する投資額 870 百万米ドルのプロジェクト。2006 年第1四半期は、浸出パッドに注水開始、その他、電気系統、電解工程などの建設継続、今期末までに鉱石 32 百万 t を浸出パッドへ運搬。

・Spence プロジェクト(BHP Billiton 社 100%、チリ)

バクテリア・リーチングなどにより銅カソード 200,000t/年を生産する投資額 990 百万米ドルの露天採掘プロジェクト。2006 年第1四半期は、主要機材の運搬がほぼ計画通り完了、予備はく土作業を開始。第1段階のダンブリーチング完了。生産開始は 2006 年第4半期を予定。

### ③鉄鉱石

- ・Rapid Growth 2プロジェクト(RGP2)(BHP Billiton 社 85%、西オーストラリア州)  
Ore Body No.18 の開発に伴い、鉄道・港の能力を拡大するため、575 百万米ドルを投資。2006 年下期には、西オーストラリア州で生産能力 8 百万t/年増強、Rapid Growth 3 プロジェクト(RGP3)に係る Finucaane Island における船積み設備回収のため 8 百万t/年規模の生産減少を補完する。
- ・Rapid Growth 3プロジェクト(RGP3)(BHP Billiton 社 85%、西オーストラリア州)  
Iron Ore Area C の開発に伴い、鉄道・港の能力を拡大するため、15 億米ドルを投資。2007 年第 4 四半期までに生産能力 20 百万t/年増強。

### ④鉄鋼原料

- ・Ravensthorpe ニッケル・プロジェクト(BHP Billiton 社 100%、西オーストラリア州)  
ニッケル・コバルト混合中間品を生産し、鉱山、選鉱所、その他施設を建設する本プロジェクトは、開発費約 1,340 百万米ドル。2006 年第 1 四半期は、エンジニアリング・調達・オフサイトでの加工・インフラ整備を計画通り実施、進捗率 60%。酸処理用タンク製造・搬入、加圧酸浸出工程の工事など、当期の目標は達成。
- ・Yabulu 精錬所プロジェクト(BHP Billiton 社 100%、クィーンズランド州)  
ニッケル・コバルト混合中間品 220,000t(ニッケル 76,000t、コバルト 3,500t)を生産する本プロジェクトは、開発費約 460 百万米ドル。工事は、建設及び機械系統の工事に着手、進捗率 47%、2007 年第 3 四半期に生産開始予定。

### (5) 探査

- ・直轄及びジュニア探査企業との提携により、探査を実施。2005 年 7 月から 2006 年 3 月までの BHP Billiton 社の支出額は 150 百万米ドル(石油・天然ガス分を除く)であった。
- ・主な対象鉱種・対象国
  - ニッケル : オーストラリア、ボツワナ、中国
  - 銅 : モンゴル、コンゴ共和国、メキシコ
  - 鉄鉱石 : オーストラリア、東アジア、南アメリカ、西アフリカ

#### 4. Grupo Mexico

・2006 年第 1 四半期は、ストライキや事故の障害にも拘らず、金属市況価格高騰により、売上高は前年同期比 6.6%増の 13.3 億 US\$を達成、純益は同 32.1%増の 3.31 億 US\$と創業以来の記録を更新。

##### (1) トピックス

- ・2006 年第 1 四半期の純益は 331.0 百万 US\$(前年同期比 32.1%増)と創業以来の記録を更新。
- ・ストライキや事故の主な発生状況は、以下のとおり。
  - 2006 年 1 月 6 日: 墨サンルイスポトシ州 San Luis Potosi 亜鉛製錬所で配電系統火災(完全復旧は第 3 四半期末見込)。
  - 2 月 19 日: 墨コアウイラ州 Pasta de los Conchos 炭鉱ガス爆発事故(死亡 65名)。
  - 2 月 28 日: 墨サカテカス州 San Martin 亜鉛・銅鉱山スト(5 月 16 日終了)。
  - 3 月 24 日: 墨ソノラ州 La Caridad 銅鉱山・製錬所スト(現在継続中)。
- ・2 月 15 日、株主へ 2005 年第 4 四半期分配当金 0.6 ペソ/株の支払い。
- ・2006 年第 1 四半期の投資額は、前年同期比 13%増の 155 百万 US\$。主な投資先は、ペルーIlo 銅製錬所、各鉱山・選鉱場、鉄道部門。
- ・2005 年 11 月 25 日 Ferrosur 社買収でメキシコ鉄道輸送の 54%を占有するが、連邦公正取引委員会の認可は未取得。

##### (2) 財務状況

(単位:百万 US\$)

	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期	2005 年 第 3 四半期	2005 年 第 4 四半期	2006 年 第 1 四半期
売上高	1,246.1	1,303.5	1,255.7	1,387.7	1,328.6
営業利益	530.8	511.8	586.1	656.5	675.0
当期損益	250.6	261.0	275.6	307.3	331.0
負債総額	2,283.0	2,001.1	1,774.5	1,724.9	1,705.4
現預金	949.4	614.8	995.6	1,261.0	1,349.5
純負債	1,333.6	1,359.3	778.9	463.9	356.9
全投資(含探鉱)	135.6	125.6	181.1	225.2	154.9

##### (3) 生産状況(主要鉱産物)

	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期	2005 年 第 3 四半期	2005 年 第 4 四半期	2006 年 第 1 四半期
銅 (千 t)	202.5(161.7)	215.5(168.7)	185.8(178.2)	181.3	169.6
銀 (千 kg)	148.0(140.2)	153.2(144.7)	141.7(141.2)	149.1	129.4
金 (kg)	246 (244)	258 (同)	264 (同)	241	241
モリブデン (千 t)	4.02(同)	3.59(同)	3.84(同)	3.35	3.47
亜鉛 (千 t)	34.7(同)	37.1(同)	37.0(同)	34.8	34.6
鉛 (千 t)	4.8(同)	5.0(同)	4.9(同)	5.0	4.6

(注)表中( )は、米アサルコ社の米破産法申請(05 年 8 月 9 日)に伴い、同社分を除外。

(4) その他

- ・GM 社の製錬所は、MM 社 3、SCC 社 2 の計 5 ヶ所。
- ・鉄道部門子会社 GFM 社の純益は、前期 35 百万 US\$、当期 47 百万 US\$と安定収益確保。

(参考)GM 社の組織( )内は GM 社権益比率)

鉱業部門 AMC 社(100%) - SCC 社(75.1%) - MM 社(0.85%)

└ ASARCO 社(100%)【米破産法申請中】

鉄道部門 ITM 社( 75%) - GFM 社(100%) - FERROMEX 社(74%)

└ FERROSUR(100%)

(注) SCC(Southern Copper Co.)社は、SPCC(Southern Peru Copper Co.)から社名変更(2005/10/11)。ペルー、メキシコ、チリで活動中。

## 5. Rio Tinto

・2006年第1四半期の銅鉱石生産量は、前年同期比4.4%増、前期比6.7%減の196.5千t。

### (1) トピックス

- ・Grasberg 鉱山では品位の低下により前年同期比銅 54%、金 94%の減、前期比銅 69%、金 96%の減。
- ・Escondida 鉱山では品位の上昇及び2005年9月に稼働開始した Norte からの生産が寄与し前年同期比で18%の増産。
- ・Kennecott Utah 鉱山では、銅地金生産量が前年同期比24%増。銅採掘時の副産物として生産されるモリブデンの生産により、鉱山の最適化は継続。
- ・Palabora 鉱山では、40日間の補修のための製錬所閉鎖による、銅鉱石処理量及びアノードの生産減もあったが、全体としての鉱石処理量は増加した。
- ・Northparks 鉱山では、品位が格段に高い Lift2 坑内鉱床への移行によって前年同期比及び前期比ともに増加した。

### (2) 財務状況

(単位:百万US\$)

	2004年 上半期	2004年 下半期	2005年 上半期	2005年 下半期
売上高	6,805	7,330	9,439	11,303
営業利益	2,163	1,687	3,221	4,477
当期損益	1,611	1,202	2,165	3,050

※四半期別の財務状況報告がないため、2005年後期報告を掲載

(単位:百万US\$)

	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
探鉱費	30	63	75	82	57

### (3) 生産状況

#### 1) 主要鉱産物の生産状況

(単位:千t、金属純分)

鉱産物	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
銅鉱石	188.2	190.1	195.4	210.7	196.5
銅地金	77.8	62.0	89.2	85.7	85.6
モリブデン鉱石	3.9	3.3	3.9	4.6	4.4

※権益比率のみ

#### 2) 主要保有鉱山、製錬所の生産状況

(単位:千t、金属純分)

鉱山名、製錬所名	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
Bingham Canyon(銅鉱石)	62.1	56.7	50.2	51.6	61.6
Escondida(銅鉱石)	84.9	94.1	101.7	100.4	100.4
Grasberg(銅鉱石)	25.7	22.0	23.6	38.2	11.9
Northparks(銅鉱石)	8.6	9.5	11.8	13.3	15.5
Palabora(銅鉱石)	6.9	7.7	8.2	7.2	7.2
Kennecott Utah Copper (銅地金)	57.2	41.5	68.1	65.1	70.9
Escondida(銅地金)	11.4	11.2	10.2	10.4	8.0
Palabora(銅地金)	9.2	9.3	10.8	9.9	6.7

※権益比率のみ

## 6. Freeport-McMoRan Copper

・2006年第1四半期は、鉱石品位・回収率がともに低下し銅・金ともに大きく減産したが、純利益は銅価格の高騰に支えられ前年同期比の2倍の2億5,170万US\$となった。

### (1)トピックス

- ・第1四半期の生産量は、鉱石の品位低下で銅が前年同期比34.1%減の2億2,130万lb、金が24.2%減の46万1,800ozだった。決算は銅価格の高騰に支えられ2億5,170万US\$の黒字で、前年同期の1億3,040万US\$に比べ倍増した。
- ・第1四半期の販売量は、銅が前年同期比31.4%減の2億2,520万lb、金は同20.6%減の47万2,500ozだった。平均販売価格(実績)は、銅が同61%上昇し2.43US\$/lb、金は同5%低下し405.54US\$/ozとなった。
- ・第1四半期の平均銅品位は前年同期の1.14%から0.72%に、銅の回収率も89.6%から82.5%に低下した。金品位は1.62g/tから0.92g/tに、金の回収率も82.7%から80.6%に低下した。
- ・第1四半期の平均粗鉱処理量は21万6,800t/日で、前年同期の19万9,400t/日に比べ8.7%増加した。2月の不法採掘者による抗議活動(道路封鎖)の4日間の操業停止を含む。第2四半期以降は22万t/日を堅持する方針。
- ・PT-Freeport Indonesia(PT-FI)のDeep Ore Zoneの鉱石生産は、4万3,800t/日で粗鉱処理量の約20%を占め、生産能力3万5,000t/日を上回る操業を継続した。PT-FIは2007年までに二次碎鉱機と坑内ベンチレーションを改善し、粗鉱生産能力を5万t/日に強化する方針。
- ・Freeport McMoRan社(FCX)が権益100%を保有するAtlantic Copper製錬所は、第1四半期は25万7,000tの精鉱とスクラップを受け入れ、1億2,940万lbの銅カソードを生産し、1億3,660万lbを販売した。FCXが権益25%を保有するPT Smelting(Gresik)社のGresik製錬所は、第1四半期は23万4,400tの精鉱を受け入れ、1億4,240万lbの銅カソードを生産した。現在、Gresik製錬所の処理能力を25万/年から27万/年へ拡張する計画が進められている。
- ・2006年の探鉱はErtsberg鉱床の下部にあるDeep Grasberg、Kucing Liar Mine ComplexとBlock Aで計画されている。
- ・高品位鉱床Big Gossanは2005年から2010年の生産開始を目視し坑内掘り開発が進められている。埋蔵鉱量は5,300万t、銅品位2.3%、金品位1.1g/tで、生産可能な銅量は25億lb、金量は120万ozと期待されている。4年間で2億2,500万US\$の設備投資を行う。Big Gossanの粗鉱処理量は7,000t/日で、銅1億3,500万lb/年、金6万5,000oz/年を生産する計画である。うち6割がPT-FIの持分となる。
- ・PT-FIは2004年から未開発の坑内掘り鉱区、Grasberg Block Cave、Kucing Liar、Mill Level Zone、Deep Mill Zone、Big Gossanを開発するために、既設坑道の400m下に坑道を建設するCommon Infrastructure Projectsを実施中である。当期工事分はスケジュール通り順調に推移した。
- ・3月23日、地滑り事故が発生し死傷者を出した。操業には影響はないものの事故の回復に100万US\$を計上。

## (2) 財務状況

(千 US\$)

	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
売上高	803,065	902,909	983,270	1,489,874	1,086,122
営業利益	357,599	430,443	459,551	929,693	531,750
純利益	130,395	175,247	165,805	463,180	251,650
探鉱費	1,920	2,342	2,159	2,382	2,576

## (3) 生産状況

## 1) 主要鉱産物の生産状況 注)生産量は金属純分

(金属純分)

鉱産物	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
銅鉱石(千 t)	152.2	137.1	179.1	214.8	100.4
金(t)	19.0	18.4	14.7	34.7	14.4
銅地金(千 t)	76.0	79.1	79.1	78.9	74.9

## 2) 主要保有鉱山、製錬所の生産状況

(千t)

鉱山名、製錬所名	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第3四半期	2006年 第1四半期
Grasberg 鉱山(90.6%) (PT フリーポート社)	152.2	137.1	156.3	214.8	100.4
Huelva 精錬所(100%) (アトランティック・カッパー社)	59.7	62.5	62.7	62.4	58.7
Gresik 精錬所(25%) (PT スメルティング社)	16.3	16.6	16.4	16.5	16.2

注)生産量は権益分

## (4) その他

- ・ 2006年の販売量は、銅が13億lbで、金170万ozを見込む。第2四半期の計画販売量は、銅2億8,000万lb、金27万5,000ozである。今後5ヵ年(2006-2010年)の年平均販売量は銅が13億lb、金が190万ozを見込んでいる。
- ・ 2005年末、グラスベルク鉱山に係るインドネシア国軍幹部への資金提供疑惑が表面化するとともに、2006年2月から3月にかけて、鉱山地内における不法採掘者と鉱山警備員との衝突、地域住民らによる利益還元要求、環境汚染疑惑が問題化したため、3月初旬、Grasberg 鉱山の事業契約(COW)の見直し問題が浮上し、現在、インドネシア政府の監査チームによってPT-FI社の5分野(生産面、地域開発基金面、歳入面、環境面、安全・治安面)にわたる事業活動について調査が行われている。

## 2006 年第 1 四半期決算

	2005 年 第 1 四半期	2005 年 第 2 四半期	2005 年 第 3 四半期	2005 年 第 4 四半期	2006 年 第 1 四半期
売上	803.1	902.9	983.2	1,489.8	1,086.1
PT-FI	760.5	751.5	811.1	1,522.1	833.6
銅	500.4	480.0	593.3	966.4	543.1
金	250.9	264.0	210.3	544.4	282.7
銀	9.1	7.4	7.4	11.2	7.7
探鉱支出	1.9	2.3	2.1	2.3	2.5
粗利益	444.0	413.3	469.9	1,053.30	497.1
銅	298.0	268.5	366.6	698.1	416.6
金	140.8	140.8	104.6	347.9	76.4
銀	5.1	3.9	(1.2)	7.1	3.9
営業利益	357.6	430.4	459.5	929.6	531.7
純利益	130.4	175.2	165.8	463.1	251.6
EPS	0.70	0.91	0.86	2.19	1.23
PT-FI					
銅生産	335.6	302.3	344.5	473.5	221.3
銅販売	328.1	313.7	346.3	468.4	225.2
平均実現販売価格 (lb 当たり US\$)	1.51	1.53	1.73	2.02	2.43
金生産	609.4	591.3	472.1	1,116.6	461.8
金販売	595.3	616.4	475	1,103.5	472.5
平均実現販売価格 (oz 当たり US\$)	426.74	428.23	445.79	494.01	405.54

(単位は百万 US\$、( )は赤字、生産販売は銅が百万 lb、金・銀は千 oz)



## 7. KGHM

- ・2006年第1四半期の税引き前利益は、1,000,493千 PLN。純利益は、871,926千 PLN で前年同期比 66.7%増。

### (1) トピックス

- ・売上高は、2,460,112千 PLNで前年同期比 46.6%増、総収入は、971,609千 PLNで、前期総収入 476,171千 PLNの約 2 倍。これは、銅、銀の市場価格の上昇、銅、銀の販売量の増加、US\$/PLN レート(前年同期比 3.9%の PLN 安。)によるもの。
- ・売上のうち、銅及び銅製品が 84.4%、銀が 11.6%を占めた。
- ・営業活動費は、1,488,503PLN で、前年比 25.9%増。1t当たりの銅生産費は、前期の 7,138PLN から8,460PLN(18.5%増)となった。この増加により、主に粗銅や銅マットの外国での消費量や価値が増加した。
- ・国内での精錬過程において銅生産費が増加したため、陽極スライムの価値が増加した。
- ・US\$では、銅生産費は前期と比較して 2,324US\$/t から 2,654US\$/t となった。

### (2) 財務状況

(単位:千 PLN)

	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
売上高	1,677,798	1,849,713	2,038,642	2,420,649	2,466,112
営業利益	503,348	510,156	716,087	862,371	949,204
純利益	523,016	495,566	691,021	659,652	871,926

### (3) 生産状況

#### 1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
銅地金(t)	130,778	133,538	147,145	148,796	136,345
銀(kg)	303,903	296,604	312,433	312,433	329,634

注)生産量は金属純分

## 8. Falconbridge

2006年第1四半期の利益は昨年同期の約163%増を記録し、462百万ドルと大幅に増加

### (1)トピックス

- ・ 昨年同期に比べ、銅49%、亜鉛70%、アルミニウム23%と実勢価格がそれぞれ上昇し、引続く価格の高騰に加え、生産量が銅アノード20%、銅カソード17%、ニッケル精鉱2%とそれぞれ増加し、今期の利益は163%増の462百万ドルと好成績を収めた。
- ・ Horne 銅精錬所のキャパシティー増量により、銅精鉱生産力が増加。
- ・ Altonote 精錬所、Lomas Bayas 鉱山、Antamina 鉱山では好成績を収めたものの、Collahuasi 銅鉱山でのコンベイヤーとSAGミルの機能停止による不測の事態で銅採掘量は減少。
- ・ オーストラリアのLennard Shelf 亜鉛鉱山再開に向け手続き継続。

(注) Inco 社によるFalconbridge社の友好的買収に関し、アメリカとヨーロッパの独禁法規制当局が検討調査を行うなか、5月8日にTeck Cominco社がInco社の買収を、5月18日にスイスのXstrata社がFalconbridge社の買収をそれぞれ表明し、Inco社のFalconbridge社買収は複雑化。

### (2)財務状況

(単位:百万US\$)

	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
売上高	1,894	2,124	2,006	2,165	2,858
営業利益*	459	464	434	463	739
当期損益	176	202	214	280	462
探鉱費**	11	15	16	16	11

\*売上高からコスト、原価償却分を差引した値。営業費、一般管理費、R&D、探鉱費等はコストに含まれない。\*\*調査、開発、探鉱費を含む

### (3)生産状況

#### 1)主要鉱産物の生産状況

(単位:千t)

鉱産物	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
銅鉱石(銅金属純分)	119	115	111	117	-
銅地金	122	125	148	131	-
ニッケル鉱石	21	13	13	11	-
ニッケル地金	28	29	29	28	-
亜鉛鉱石	117	130	120	87	-
亜鉛地金	38	36	32	9	-

注)主要鉱産物の合計 / 2006年第1四半期の生産量は今期レポートに公表されなかったことから、今期は不明。

#### 2)主要保有鉱山、製錬所の生産規模

(単位:千t)

鉱山名、製錬所名	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
Collahuasi 銅鉱山(44%)	47	43	44	48	-
CCR 銅精錬所	67	67	81	89	-
Sudbury 鉱山(Ni)	4	6	4	4	-
Nikkelverk 精錬所(Ni)	21	21	21	21	-
Brunswick 鉱山(亜鉛)	67	72	67	59	-
Kidd Creek 精錬所(亜鉛)	38	36	32	9	-

注)生産量の最も多い鉱山・精錬所の主要鉱産物を記載

2006年第1四半期の生産量は今期レポートに公表されなかったことから、今期は不明。

## 3)2006年第1四半期生産概況(鉱石)

(単位: t、金属純分)

	銅部門		ニッケル部門		亜鉛部門		アルミニウム部門		合計	
	2006年	2005年	2006年	2005年	2006年	2005年	2006年	2005年	2006年	2005年
銅	104,834	106,938	8,900	8,561	2,306	1,335			116,040	116,834
(銅アノード)	151,167	125,611							151,167	125,611
ニッケル			12,639	14,050					12,639	14,050
フェロニッケル			6,879	6,474					6,879	6,474
亜鉛	37,563	47,598			64,810	67,067			102,373	114,665
鉛					19,005	18,893			19,005	18,893
ホーキサイト							627,531	462,917	627,531	462,917
アルミナ (Al含む)							145,931	150,876	145,931	150,876
モリブデン	842	431							842	431
コバルト			287	305					287	305
銀	1,868	1,769			1,707	1,638			3,575	3,387

## 4)2006年第1四半期生産状況(地金)

(単位:t、金属純分)

	銅部門		ニッケル部門		亜鉛部門		アルミニウム部門		合計	
	2006年	2005年	2006年	2005年	2006年	2005年	2006年	2005年	2006年	2005年
銅	143,070	121,585	10,079	8,952					153,149	130,537
ニッケル			21,547	21,456					21,547	21,456
フェロニッケル			6,879	6,474					6,879	6,474
亜鉛	37,336	37,965			15,421	16,713			52,757	54,678
鉛					22,399	21,594			22,399	21,594
アルミニウム							62,334	61,373	62,334	61,373
コバルト			1,310	1,330					1,310	1,330
銀	8,940	8,210							8,940	8,210
金	228	213							228	213

## 9. Antofagasta

- ・グループの第1四半期の銅生産量は107,000tで前年同期に比べ10.0%の減、2005年の四半期平均よりも8.4%減となった。
- ・モリブデン生産量は2005年の四半期平均よりも7.7%減少し2,000tとなったが、これは主に鉱石処理量の減少と回収率の悪化によるものである。
- ・グループのキャッシュコストはモリブデンクレジット効果の減少で前年の13.9¢/lbから49.7¢/lbに大幅に増大した。

### (1) トピックス

- ・ Los Pelambres 鉱山の第1四半期の銅生産量は74,100tで2005年の四半期平均に比べ8.1%の減となった。この主な要因は鉱山の生産計画で予め予測されていた硬質な鉱石の採掘割合が増大し、鉱石処理量が減少したためである。
- ・ Los Pelambres 鉱山のキャッシュコストは前年のマイナス17.1¢/lbから大幅に上昇し、28.9¢/lbとなった。これは主にモリブデン価格が昨年と比べ低下し、モリブデンクレジットがマイナス91.8¢/lbからマイナス59.5¢/lbになったためである。
- ・ パキスタンの Reko Diq 銅プロジェクトの75%の権益を保有する、オーストラリアの Tethyan Copper 社を買収した。

### (2) 財務状況

(単位:百万\$)

	2004年 上期	2004年 下期	2005年 上期	2005年 下期
売上高	753.4	1,188.7	1,123.6	1,321.7
営業利益	426.9	776.5	739.0	768.3
当期損益	336.2	620.4	607.5	620.7

### (3) 生産状況

#### 1) 主要鉱産物の生産状況

(金属純分)

鉱産物	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
銅鉱石(千t)	118.9	108.5	116.0	123.9	107.0
モリブデン鉱石(千t)	2.2	2.5	2.0	2.0	2.0
キャッシュコスト(¢/lb)	-7.9	-9.6	31.2	39.1	49.7

#### 2) 主要保有鉱山の生産状況

(単位:千t、金属純分)

鉱山名	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
Los Pelambres (60%)	80.6	74.4	81.0	86.9	74.1
El Tesoro (61%)	26.3	23.6	24.0	24.3	20.8
Michilla (74.2%)	12.0	10.6	11.1	12.7	

注1) Los Pelambres 鉱山は硫化精鉱のみ、El Tesoro 鉱山及び Michilla 鉱山はカソードのみを生産

注2) モリブデン生産は Los Pelambres 鉱山のみ

## 10. Anglo American (四半期レポートを発行していないため、2005 年後期報告までを掲載)

- ・ベースメタル部門の営業利益は、銅・ニッケル・亜鉛価格の上昇を背景として、前年同期比 35.1%増の 957 百万\$。
- ・2004 年 12 月に Hudson Bay 鉱山(カナダ)を売却した影響で、銅・亜鉛生産量は減少した。

### (1) トピックス

- ・2005 年の下半期は、売上高が前年同期比 4.1%増、営業利益が前年同期比 43.4%増、当期利益が前年同期比 32.0%増。
- ・コスト削減による費用効果は 427 百万\$(2005 年前期は 303 百万)。
- ・Anglo American Chile 社が同社が、100%権益を有する Mantos Blancos 鉱山を鉱量枯渇のため 2009 年に閉山すると発表。
- ・コジャワシ鉱山(チリ)のモリブデン製錬所を 9 月に操業開始。

### (2) 財務状況

(百万 US\$)

	2004 年 上半期	2004 年 下半期	2005 年 上半期	2005 年 下半期
売上高	15,229	16,639	17,145	17,327
営業利益	2,325	2,372	2,975	3,401
当期利益	2,226	1,275	1,838	1,683
探鉱費(総額)	56	64	67	83
金	(19)	(24)	(22)	(23)
ベースメタル	(18)	(23)	(20)	(30)
白金族	(11)	(2)	(9)	(33)

### (3) 生産状況

#### 主要鉱産物の生産状況

(金属純分)

鉱産物	2004 年 上半期	2004 年 下半期	2005 年 上半期	2005 年 下半期
銅鉱石(t)	363,900	402,100	315,600	319,000
ニッケル(t)	11,700	12,300	12,600	13,900
亜鉛(t)	203,200	207,500	153,800	170,400
鉛(t)	26,300	28,400	29,800	33,200
金(oz)	2,932,000	3,327,000	3,138,000	3,028,000
白金(oz)	1,182,700	1,315,500	1,291,400	1,210,600
パラジウム(oz)	634,900	696,900	731,700	645,000
ロジウム(oz)	109,300	149,300	175,700	157,800

注)金生産量は、AngloGold 社分。2004 年は、Gold Fields 社分を含む。

### (4) その他

2005 年下半期の収益比率は、ベースメタル部門が 28.1%、鉄鉱石・合金鉄部門が 28.1%、ダイヤモンド部門が 8.4%、石炭部門が 19.0%、白金族部門が 13.0%など。

## 11. Placer Dome

- ・今期3月、Barrick Gold 社による買収が完了し、Placer Dome 社は Barrick Gold 社に完全吸収される。

### (1) トピックス

- ・ 2月3日 Barrick Gold 社は Placer Dome 社株を94%所有、3月15日残りをすべて獲得し買収は完了。Placer Dome 社所有の12鉱山と現在進行中の探鉱や開発プロジェクトを獲得し、世界最大の金生産会社となった。
- ・ Barrick 社は1月末、Placer 社の支配権を取得後、統合計画に乗り出し、年間約2億USドルの相乗効果が得られると想定している。今期の統合計画は、合併企業サイズにあった組織構成の導入、世界中の営業・探鉱事務所の統合、重複し無駄となるものの即効排除などに焦点を当て行われた。
- ・ 探鉱チームも統合が行われ、Placer Dome 社所有の探鉱周辺にポテンシャルの高い地域があると推定、検討を開始。

(注)今期、Barrick 社の買収の完了で、Placer Dome 社は実質的になくなったため、Placer Dome 社としてのトピック内容はとくに公表されていない。財務状況は Barrick 社が第一四半期報告に公表した、状況説明を目的とした Pro Forma Consolidated Statement から抜粋。生産状況についても、現在調整中のため今期は不明。第2四半期報告からは Barrick 社として報告する予定。

### (2) 財務状況

(単位:百万USドル)

	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
売上高	491	460	488	539	491
営業利益*	104	78	109	152	104
当期損益	31	-7	34	22	31
探鉱費	18	23	24	26	18

\*営業利益は売上高から売り上げコスト、原価償却分を差引した値。一般管理費、R&D、探鉱費等はコストに含まれない。

### (3) 生産状況

#### 1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
金(万oz)	91.1	91.6	90.1	91.9	-
銅(千t)	41	41	39	41	-

注)第1四半期の生産状況は、Barrick 社の買収に関し調整中のため、不明。

#### 2) 主要保有鉱山、製錬所の生産規模

鉱山名、製錬所名	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
Porgera(Au)(万oz)	18.6	16.6	16.3	12.5	-
Cortez(Au)(万oz)	13.2	16.4	13.4	11.1	-
Zaldvar(Cu)(千t)	33	30	28	32	-

注)第1四半期の生産状況は、Barrick 社の買収に関し調整中のため、不明。

## 12. Inco

・2006年第1四半期の利益は202百万USドルで、昨年同期の317百万ドルに比べ減少。

### (1) トピックス

- ・ 今期の利益は前年同期に比べ減少したがその大きな理由は、1)生産コスト/運営コスト高、2)前期にはなかった Voisey's Bay に係る利子支払いが生じたため、3)銅とPGMの出荷量が減少したこと、4)ニッケルとコバルトの実勢価格が下がったことなどがあげられる。
- ・ Voisey's Bay でニッケル 1.35 億万ポンドを生産。2006年2月に出された想定生産量を上回り、2005年同期生産量に比べ11%増量。これまで外部購入していた鉱石を Voisey's Bay からの生産鉱石に変えていくことで、コスト減を狙い、その効果は2006年後期に見られると想定。
- ・ United Steel Worker's 組合との労働契約が5月末に切れるため、新規契約に向けた話し合いを開始。
- ・ ニューカレドニア・Goro プロジェクトは今期、約72%が終了。

(4月はじめ Goro プロジェクトサイトで暴動が勃発。作業用道路の閉鎖、機械などが破壊されるなど約100万ドルの被害があり、現場作業も一時的に中断された。しかし、4月25日には作業も再開され、当地当局も今後の長期的な安全性の確保に努めることを保証。)

(注)Inco 社による Falconbridge 社の友好的買収に関し、アメリカとヨーロッパの独禁法規制当局による調査結果を待つなか、5月8日に Teck Cominco 社が Inco 社買収を、5月18日にスイスの Xstrata 社が Falconbridge 社の買収をそれぞれ表明し、Inco 社の Falconbridge 社買収は複雑化。

### (2) 財務状況

(単位:百万USドル)

	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
売上高	1,122	1,196	1,071	1,121	1,211
営業利益*	457	516	321	324	410
当期損益	317	215	62	235	202
探鉱費	9	11	10	13	15

\*売上高からコスト、原価償却分を差引した値。営業費、一般管理費、R&D、探鉱費等はコストに含まれない。

### (3) 生産状況

#### 1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
ニッケル(千t)	53.7	55.9	50.5	58.8	59.0
銅(千t、出荷量)	32.6	26.6	26.4	34.8	30.2
コバルト(t、出荷量)	456	381	440	417	486
PGM(千oz、出荷量)	108	132	57	118	89

注)鉱種別インコ社生産量を示す。

### 13. Newmont Mining

・2006年第1四半期の純利益は213百万US\$に達した。

#### 1. トピックス

- ・第1四半期の金販売は1,392千オンスで、コストは275\$/ozであった。
- ・Batu Hijau 鉱山の生産は、選鉱設備の改修を行ったため、前年同期より19%減産。
- ・西オーストラリア州・Boddington 金プロジェクト、AngloGold Ashanti 社との共同開発を決定。

#### 2. 財務状況

(千US\$)

	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
売上高	945,000	1,006,000	1,164,000	1,305,000	1,148,000
営業利益	187,000	136,000	437,000	489,000	240,000
純利益	85,000	50,000	126,000	72,000	213,000
探鉱費	43,000	53,000	59,000	69,000	54,000

#### 3. 生産状況

##### 1) 主要鉱産物の生産状況

(金属純分)

鉱産物	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
金(千oz)	1,551	1,537	2,164	1,799	1,392
銅鉱石(t)	30,485	36,935	50,170	30,844	19,368
亜鉛鉱石(t)	13,624	NA	—	—	—

注)生産量は金属純分

##### 2) 主要保有鉱山、製錬所の生産状況

(単位:千oz、t)

鉱山名、製錬所名	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
Nevada(100%)	557.5	569.4	554.2	606.2	489.3
Yanacocha(51.35%)	396.9	370.9	395.1	545.8	395.3
Batu Hijau(45%)	23,995	36,935	50,170	30,844	19,368

注)生産量は権益分

#### 4. その他

- ・第1四半期の探鉱予算は54百万US\$で前年同期比26%増となった。内訳は、グラスルーツ探鉱に33百万\$ (前年同期比27%増)、事業化調査及び開発に21百万\$ (前年同期比24%増)が充てられた。



## 14. Teck Cominco

・2006年第1四半期の利益は448百万USドルで、昨年同期の205百万ドルの倍増。

### (1) トピックス

- ・引き続き金属価格の高騰と石炭価格の高騰を受け、今期の利益は大幅に上昇。
- ・3月 Falconbridge 社と共同所有するオーストラリアの Lennard Shelf 鉱山の再開への取り組みを発表。今後3ヶ月以内に決断する予定
- ・Pogo 鉱山が操業を開始。しかし、テーリング浄水場の不具合により、ミル処理量は予定容量を満たさなかった。
- ・メキシコの Morelos 金プロジェクトのプリフィジビリティ調査開始。結果は2007年第1四半期に。
- ・Elk Valley Coal Partnership は大口顧客と2006年度の販売契約に合意。平均107US\$/t。

(注) Teck Cominco 社は5月9日、Inco 社に買収オファーを提示。同社の買収表明で、Inco 社の Falconbridge 社買収が複雑化。

### (2) 財務状況

(単位:百万US\$)

	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
売上高	928	994	1,150	1,343	1,273
営業利益*	319	417	560	700	624
当期損益	205	225	405	510	448
探鉱費	5	14	31	20	8

\*売上高からコスト、原価償却分を差引した値。営業費、一般管理費、R&D、探鉱費等はコストに含まれない。

### (3) 生産状況

#### 1) 主要鉱産物の生産状況

鉱産物	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
銅鉱石(千t)	61	63	67	72	59
亜鉛鉱石(千t)	161	162	180	154	150
亜鉛地金(千t)	71	72	13	67	74
鉛地金(千t)	22	21	5	22	24
モリブデン(千ポンド)	2,599	2,354	2,118	2,411	2,111
石炭(千t)	2,527	2,673	2,356	2,392	2,294

注) 主要鉱産物の合計

#### 2) 主要保有鉱山、製錬所の生産規模

鉱山名、製錬所名	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
Red Dog 鉱山(Zn)(千t)	136	135	155	142	135
Highland Valley (Cu)(千t)	38	41	47	49	36
Highland Valley (Mo)(千ポンド)	1,965	1,631	1,276	1,277	1,182
Elk Valley Coal Partnership (Coal)(千t)	2,527	2,673	2,356	2,392	2,294

注) 生産量の最も多い鉱山・精錬所の主要鉱産物を記載

## 15. Peñoles

・2006年第1四半期は、売上高678百万US\$(前年同期比54.1%増(\$換算)、40.5%増(ペソ換算)、純益108百万US\$(同120%増(\$換算)、101%増(ペソ換算)で、創業以来の記録を更新。

### (1) トピックス

- ・2006年第1四半期は、売上高678百万US\$、純益108百万US\$で、創業以来の記録を更新。
- ・売上高及び純益の主な増加要因は、金属市況価格の高騰、鉱石品位の上昇、他社からの精鉱購入量増加、メキシコ・チワワ州ピノス・アルトス金プロジェクトの売却収入90百万US\$等による。
- ・ソラ州ミルピージャス銅掘鉱山(坑内)は、2005年10月からの試験操業を継続中で、本格操業開始(銅カソード5.5万t/年)は本年6月見込。(総投資額218百万US\$計画)
- ・メキシコ全国鉱夫冶金労組員の年次更新契約は、給料6%引上で合意し、ストを回避。

### (2) 財務状況

(単位:百万US\$)

	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
売上高	439.6	442.8	470.8	571.3	677.5
営業利益	57.3	47.1	46.4	87.9	114.7
当期損益	49.1	28.1	23.9	51.8	107.8
負債総額	516.5	534.5	551.4	570.0	581.0
現預金	168.2	107.3	84.9	97.6	116.9
純負債	348.3	427.2	466.5	472.4	464.1
探鉱費	10.2	12.0	13.1	13.4	-

(注)Peñoles社HPより、05年第1四半期:11.1821ペソ/US\$、第2四半期:10.9823ペソ/US\$、第3四半期:10.7129ペソ/US\$、第4四半期:10.7138ペソ/US\$、06年第1四半期:10.5839ペソ/US\$で換算。

### (3) 生産状況(主要鉱産物)

(金属純分)

	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
金鉱石 (千kg)	2.6	2.5	2.7	2.9	2.7
金地金 (千kg)	7.2	7.3	8.2	9.4	9.9
銀鉱石 (千kg)	301.7	337.5	358.5	346.5	375.0
銀地金 (千kg)	623.4	610.9	644.0	711.4	688.9
鉛鉱石 (千t)	14.6	15.3	15.6	16.4	16.6
鉛地金 (千t)	36.5	33.8	34.9	37.3	36.6
亜鉛鉱石 (千t)	52.5	52.8	52.0	54.4	53.1
亜鉛地金 (千t)	59.6	46.7	62.0	63.5	53.3
ビスマス (t)	250	231	220	270	246

### (4) 輸出状況(主要鉱産物)

	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
銀地金 (千kg)	502.0	487.5	512.2	605.5	679.7
亜鉛地金 (千t)	39.6	27.7	40.3	39.9	24.5
ビスマス (t)	220	220	200	280	181

### (5) その他

- ・Peñoles社の製錬所は、コアウイラ州 Torreon 市内にある MET-MEX と Aleazin の2ヶ所。

## 16. Aneka Tambang

- ・2006年第1四半期のフェロニッケル生産量が前年同期比2倍。FeNi II(生産能力5,500t)・III製錬工場(同15,000t)の本格操業によりフェロニッケル生産体制が強化される。

### (1) トピックス

- ・2006年第1四半期のフェロニッケル生産量は前年同期比104%増の2,706t、サポライト鉱石生産では同15%増の67万1,770wmt、リモナイト鉱石生産量は、同29%減の22万1,982wmt。金生産量はPongkor鉱山の安全強化と出鉱能力増強工事のため同17%減の466kgになった。
- ・フェロニッケルの増産理由は、一時生産を停止していたFeNi II製錬工場の補修を完了し、通常運転に戻ったためである。また、5月からのFeNi III製錬工場の商業生産を受けて2006年のフェロニッケル生産量は2万tに達すると予想している。2005年実績は7,338tだった。
- ・販売量はフェロニッケルが前年同期比15%増の1,576t、ニッケル鉱石が同11%減の71万2,840wmt、ポーキサイトの販売量は同微増の37万1,995wmt、金は39%減の412kgとなった。
- ・第1四半期利益は最終的に前年同期比18%減の1,310億ルピア。売上高は6%減の5,632億ルピアを計上した。ニッケル部門が売上げの78%を占め、金は14%だった。探鉱費は、前年同期比56%増の120億ルピアを計上した。減収減益の要因は、ニッケル鉱石と金の販売量の低下ならびに販売価格がフェロニッケル(6.56→6.13US\$/lb)、ニッケル鉱石(サポライト: 44.99→41.88US\$/wmt、リモナイト: 15.16→14.23US\$/wmt)と低下し、石油製品の政府による補助金削減を受けて燃料・原料価格などが56%の支出増となったためである。
- ・当期のSaprolite 鉱石生産は、Pomalaa、Gee、Buli、Mornopoの4鉱山である。Limoniteは、LGSO Pomalaaのみである。
- ・砂鉄鉱山を3箇所(Cilacap、Kutoarjo、Lumajang)保有するが当期生産はなかった。

### (2) 財務状況

(単位:百万IDR)

	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第1四半期	2006年 第1四半期
売上	599,930	714,104	902,214	1,055,091	563,245
輸出	518,199	574,105	792,155	996,056	503,414
フェロニッケル	182,816	144,117	290,668	367,825	197,027
ニッケル鉱石					
Saprolite	245,105	335,615	319,916	409,380	218,326
Limonite	30,018	33,333	53,973	79,140	23,387
金	25,171	22,585	56,532	70,020	19,450
銀	0	338	20,733	5,999	286
国内	81,731	139,999	110,059	59,034	59,831

(単位は百万インドネシア・IDR)

### 米US\$ベース輸出高

(単位:百万US\$)

	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第1四半期	2006年 第1四半期
売上	55.9	60.1	78.6	100.0	54.3
フェロニッケル	19.7	15.0	28.7	36.9	21.3
ニッケル鉱石					
Saprolite	26.4	35.1	31.6	41.0	23.5
Limonite	3.2	3.5	5.5	7.9	2.5
金	2.7	2.3	5.6	7.0	2.1
銀	0	0	2.1	0.6	0

## (3) 生産状況(生産販売実績)

	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第1四半期	2006年 第1四半期
生産					
フェロニッケル(t)	1,326	1,404	1,271	3,337	2,706
ニッケル鉱石(t)	897,238	749,893	895,648	1,538,021	893,752
Saprolite	586,328	598,103	652,337	1,571,484	671,770
Limonite	310,910	151,790	243,311	(33,463)	221,982
金(Kg)	563	1,033	757	558	466
銀(Kg)	4,770	8,046	6,638	5,150	3,603
販売					
フェロニッケル	1,366	939	1,892	2,791	1,576
ニッケル鉱石(WMT)	800,496	981,122	938,937	1,365,075	712,840
Saprolite(WMT)	588,681	779,849	660,382	996,478	561,811
Limonite(WMT)	211,815	201,273	278,555	368,597	151,029
金(Kg)	679	1,151	1,103	706	412
銀(Kg)	7,083	4,148	11,311	7,280	5,893
販売価格					
フェロニッケル (lb 当たり US\$)	6.56	7.27	6.88	5.82	6.13
ニッケル鉱石					
Saprolite Wett当たり US\$	44.99	45.17	47.92	42.39	41.88
Limonite Wett当たり US\$	15.16	17.46	19.82	18.95	14.23
金(oz 当たり US\$)	430.79	425.37	443.64	498.66	550.87
銀(oz 当たり US\$)	6.94	7.25	6.95	8.09	4.71

## (4) その他

- ・ 第1四半期の探鉱費は、ラテライトニッケル鉱、金、ポーキサイトを対象に前期比 56%増の 120億 IDR(Ni-92億; Au-21億; ポーキサイト-4億 etc)。ラテライトニッケルの探鉱は、既存の鉱床周辺をターゲットに Buli [Pakal Block & Sangaji] (Halmahera)、南東 Sulawesi [Tapunopaka & Mandiodo]、Obi 島 [Obi & Kawasi Block] で展開した。コアボーリング調査の全長は 20,635m に及ぶ。
- ・ 金の探鉱は、Wast Java の Pongkor、Bengkulu の Seblat、Gorontalo の Buladu で展開している。Pongkor では地下水湧水量の把握のために 604.15m のボーリング調査を行うとともに、Kubang Cicau 鉱脈で実施したボーリング調査において区間 7m、金品位 14.58g/t、銀品位 59g/t の鉱化帯を捕捉した。Seblat では Gunung Husein 鉱脈をターゲットにして広域地質図(4200ha)を作成するとともに土壌サンプリング 185 検体、転石 466 検体を採取した。Gorontalo では、Bolontio と Kasia 地域を対象に詳細地質図(1105ha)などの作成を行っている。
- ・ 2006年2月12日、FeNi III 製錬工場の火入れを行なう。
- ・ Pongkor 金鉱山の 2006年の金生産は 2360kg を目標としている。

・ 合併事業は以下のとおり。

- －PT Cibaliung Sumber Daya (ANTAM 10.25%) : Austindo 社との金鉱開発プロジェクト、2006 年第 1 四半期から建設着工、第 4 四半期からの生産開始を目視する。
- －PT Sorikmas Mining (ANTAM 25%) : Opra 社と共同で Pungkut 金プロジェクトの北ブロックに位置する Sambung 探鉱区で調査を実施している。トレンチ調査において優勢な金の鉱化帯 (Trench2: 区間 6m・2.53g/t、区間 9m・1.80g/t、Trench3: 区間 48m・7.34g/t、区間 3m・55.5g/t、Trench9: 区間 24m・4.77g/t、区間 8m・2.54g/t) を捕捉。
- －PT Nusa Halmahera Minerals (ANTAM 17.5%) : Newcrest Mining 社と共同で Toguraci 鉱山を操業するが、品位低下と露天掘りスロープの崩壊により 2006 年 6 月に閉山する予定。隣接する Kencana プロジェクトに積極投資する。投資額は 5000 万 US\$ を超える。
- －Tayan アルミナプロジェクト: 昭和電工(株)、丸紅(株)、シンガポール企業 Staits Trading Amalgamated Resources Private (STAR' s) 社の 3 社と、年産 30 万 t のケミカル用途のアルミナ工場を建設する JV 契約を 3 月 31 日に締結。

## V. その他企業の動向、主要国の生産統計

### 1. 豪州企業

#### 1-1. 概要

オーストラリア鉱業は依然として好調である。鉱山会社各社の生産量増加の主な要因は、高値を続ける鉱物資源価格と中国を中心とする旺盛な需要に対応したものである。一方、豪ドル高に加え、労働者不足・材料等の価格上昇は生産コストを押し上げ好調な鉱業のマイナス要因となっている。

本稿では、下記のオーストラリア関係主要非鉄企業の財務状況・生産状況・探鉱開発状況について下記 13 社の四半期報告等をもとに取りまとめたものである。

- 1) Alumina Limited(アルミナ)
- 2) Alcoa World Alumina and Chemicals 社(AWAC)(アルミナ)
- 3) CBH Resources Limited(亜鉛・鉛・銅)
- 4) Consolidated Minerals Limited(クロム、マンガン、ニッケル)
- 5) Energy Resources of Australia Ltd (ERA) (ウラン)
- 6) Iluka Resources Limited(ミネラルサンド)
- 7) Jubilee Mines NL 社(ニッケル)
- 8) Lihir Gold Limited(金)
- 9) Minara Resources Limited(ニッケル・コバルト)
- 10) Newcrest Mining Limited(金・銅)
- 11) Oxiana Limited(金・銅)
- 12) Perilya Limited(亜鉛・鉛)
- 13) Zinifex Limited(亜鉛・鉛・銅)

## 1-2. 豪州主要各社の生産・財務状況

### 1) Alumina Limited

#### (1) 財務状況

Alumina 社は、2001 年に Western Mining Co.社がアルミニウム部門とその他の部門とに分離した際にアルミニウム部門をもとに設立された会社。その他の部門は、WMC Resources Ltd.社となりニッケル、銅、ウランその他の事業を実施していたが、2005 年に BHP Billiton 社に買収された。

(単位:百万 A\$)

百万 A\$	2004 6 月末半期	2004 年*1 12 月末半期	2005 6 月末半期	2005 *2 12 月末半期	コメント
税引き後純利益	166.7	149.7	163.3	152.3	・2006 年 6 月半期財務報告は 7-8 月発表予定

\*1 2004 年 12 月末までの 12 ヶ月分から、2004 年 6 月末までの 6 ヶ月分を差引いた数値

\*2 2005 年 12 月末までの 12 ヶ月分から、2005 年 6 月末までの 6 ヶ月分を差引いた数値

#### (2) 生産状況

AWAC 社の項参照

#### (3) 探鉱・開発状況

AWAC 社の項参照

### 2) Alcoa World Alumina and Chemicals (AWAC)

#### (1) 財務状況

AWAC 社は、Alcoa 社(米国)が権益 60%、Alumina Limited 社が権益 40%を持つ JV 企業。

(単位:百万 US\$)

百万 US\$	2004 6 月末半期	2004 年 *1 12 月末半期	2005 6 月末半期	2005 *2 12 月末半期	コメント
総収入	1,816.2	2,015.8	2,172.1	2,327.7	・2005 年は、アルミナ・アルミニウムの販売価格の上昇を、エネルギー・原材料コスト高、豪ドル高が相殺し、昨年並み。
営業利益	277.6	311.0	309.3	335.5	

\*1 2004 年 12 月末までの 12 ヶ月分から、2004 年 6 月末までの 6 ヶ月分を差引いた数値

\*2 2005 年 12 月末までの 12 ヶ月分から、2005 年 6 月末までの 6 ヶ月分を差引いた数値

#### (2) 生産状況

鉱種	2002	2003	2004	2005	コメント
アルミナ (Mt)	12.3	13.1	13.6	13.7	・2005 年は第 1 四半期の西オーストラリア州の精錬所の操業上の問題、スリナムでの生産低下、米国でのハリケーンの影響を受け、アルミナの生産は 1%とわずかに増加。
アルミニウム (t)	378,000	384,000	385,000	377,000	

### 3) CBH Resources Limited

#### (1) 財務状況

(単位:千 A\$)

	2004 *1 6 月末半期	2004 12 月末半期	2005 *1 6 月末半期	2005 12 月末半期	コメント
総収入	76,145	71,052	70,947	44,480	・Endeavor 鉱山事故により総収入、利益大幅減
税引き後純利益	4,120	4,955	4,179	▲10,989	・約 11 百万 A\$の損益
探査費用	94	154	5	94	

\*1 2004 年 6 月末までの 12 ヶ月分から、2003 年 12 月末までの 6 ヶ月分を差引いた数値

\*2 2005 年 6 月末までの 12 ヶ月分から、2004 年 12 月末までの 6 ヶ月分を差引いた数値

#### (2) 生産状況

(単位:金属純分t)

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	2006 1/四	コメント
亜鉛精鉱	18,099	15,022	15,392	4,779	4,083	・通常の 30%程度の生産量。 ・第 2 四半期は、通常生産の 60%程度、第 3 四半期にはフル生産に戻る見込み。
鉛精鉱	9,540	7,970	8,507	2,595	1,804	

#### Newcastle 積出港取扱量

(単位:t)

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	2006 1/四	コメント
積出量	57,334	81,743	70,607	116,770	96,073	・Endeavour 鉱山分は事故の影響で減少。その他はほぼ計画通り。

#### (3) 探鉱・開発状況

- ・Sulphur Springs 鉱床から走向方向 6km にある Panorama JV (60% CBH)でボーリング開始
- ・Teck Cominco 社と Napier Range 地区での鉛亜鉛鉱床探査プロジェクトを実施(70% CBH)
- ・Endeavor 鉱山(ニューサウスウェルズ州 Cobar): 鉱山開発と長期採掘のための充填作業に注力。換気系の改修。回収系の工事は 6 月までに完了見込み。
- ・Sulphur Springs 鉱山(西オーストラリア州): 浅所ボーリング完了。資源量 13.8 百万 t・亜鉛 3.7%,銅 1.4%,銀 21g/t。露天採掘。F/S ほぼ完了。今年末には着工。生産規模は 1.25 百万t/年。
- ・Broken Hill 鉱山(ニューサウスウェルズ州): 西部鉱化帯の新たな坑内採掘の開発計画加速。



## 4) Consolidated Minerals Limited

### (1) 財務状況

(単位:百万 A\$)

	2004 *1 6 月末半期	2004 12 月末半期	2005 *1 6 月末半期	2005 12 月末半期	コメント
収入	77.2	85.6	198.62	103.8	・マンガン・ニッケル価格の低迷にも関わらず、Kambalda ニッケル・プロジェクトの効果もあり売上げは前年同期 21.3%増加。 ・国際会計基準導入の調整前利益は A\$7.4 百万。
税引き後純利益	17.8	41.1	29.2	3.2	

\*1 2004 年 6 月末までの 12 ヶ月分から、2003 年 12 月末までの 6 ヶ月分を差引いた数値

\*2 2005 年 6 月末までの 12 ヶ月分から、2004 年 12 月末までの 6 ヶ月分を差引いた数値

### (2) 生産状況

(単位:t)

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	2006 1/四	コメント
マンガン	139,374	192,273	214,959	238,402	220,351	・特記事項なし
クロム	62,010	58,694	58,666	63,007	65,651	・特記事項なし
ニッケル	1,085	816	976	1,440	35,199	・特記事項なし

### (3) 探鉱・開発状況

- ・マンガンは、Woodie Woodie 鉱山地区(西オーストラリア州)で、Camp East 鉱床の延長を確認。鉱化は長さ 180m、幅・厚さ 80m。最高部で深さ 10m、幅 8m・Mn 37.5%。さらにボーリング調査予定。
- ・クロムは、Coobina 地区(西オーストラリア州)の Newlands 露天採掘の南東部壁下部でボーリングを実施。走向方向に約 40m の連続を確認。
- ・鉄鉱石は、Mindy Mindy 地区(西オーストラリア州)でボーリングを実施。資源量 44.8 百万 t・Fe 55.2%(走向方向 16km に及ぶ CosMin 社鉱区の 1/3)

## 5) Energy Resources of Australia Limited (ERA)

### (1) 財務状況

(単位: 百万 A\$)

	2004 6 月末半期	2004 *1 12 月末半期	2005 6 月末半期	2005 *2 12 月末半期	コメント
収入	95.4	146.6	129.8	136.2	・税引き後純利益は対前年比 10% 増、収入は 9.9% 増であったが、生産量のほとんどが長期契約のためウランのスポット価格上昇の恩恵を受けず。
税引き後純利益	14.0	23.0	17.0	23.7	

\*1 2004 年 12 月末までの 12 ヶ月分から、2004 年 6 月末までの 6 ヶ月分を差引いた数値

\*2 2005 年 12 月末までの 12 ヶ月分から、2005 年 6 月末までの 6 ヶ月分を差引いた数値

### (2) 生産状況

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	2006 1/四	コメント
ウラン (t, U <sub>3</sub> O <sub>8</sub> )	1,464	1,250	1,590	1,606	1,392	・2006 年第 1 四半期は、品位低下により前年同期生産量を下回る。
処理鉱石('000 t)	564	566	567	508	555	

### (3) 探鉱・開発状況

- ・Ranger 鉱山の露天採掘の東側隣接地区でボーリング 4,286m を実施。
- ・探鉱費 1.4 百万 A\$ を支出(2006 年探鉱費 27% 相当)。
- ・雨季はアクセスが制限されるのでボーリングは露天採掘の周辺に集中。結果は 2007 年。
- ・2005 年に実施した空中物探の結果からボーリング地点を選定、4,800m のボーリング実施予定。

## 6) Iluka Resources Limited

### (1) 財務状況

(単位: 百万 A\$)

	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	2006 1/四	コメント
総売上	197.9	248.7	199.9	274.9	214.1	・2006 年第 1 四半期総売上は前年同期比 8.2% 増 ・ミネラルサンド売上は 5.8% 増。 ・売上は前年同期に比べジルコン、石炭は増、ルチルは同じ、イルメナイトは大きく減少。
税引き後利益	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	
探鉱支出	3.9	5.3	6.1	6.3	4.5	

### (2) 生産状況

(単位: t)

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	2006 1/四	コメント
ルチル	40,703	46,220	46,753	40,382	41,428	・2006 年第 1 四半期は、米国フロリダでの生産減を CRL (クィーンズランド州) の生産増が相殺、前年同期比 1.8% 増。
人工ルチル	130,035	139,556	138,113	121,945	129,404	・Narngulu (西オーストラリア州) のキルンの 80 日間のメンテナンスのため、前年同期に比べ微減。
イルメナイト	398,457	421,376	416,867	380,205	407,224	・西オーストラリア州での高品位鉱採掘により前年同期比生産増。
ジルコン	98,918	110,583	103,146	105,584	109,317	・Mid West (西オーストラリア州)、CRL が全体の生産増に寄与。
リュウコキシン (Hyti)	3,962	3,249	3,434	12,116	9,946	・特記事項なし。
石炭	263,059	301,103	296,225	372,059	432,211	・2006 年第 1 四半期は、発電所向け需要に合わせて一時的に増産。生産は前年同期比 64.3% 増。

### (3) 探鉱・開発状況

- ・2006 年第 1 四半期の探鉱費は前年同期比 15% 増の A\$4.5 百万。探鉱費は、3 分の 1 が西オーストラリア州、19% が Eucla Basin (南オーストラリア州)、18% が Murray Basin (ビクトリア州/ニューサウスウェルズ州)、15% が米国において支出。
- ・Perth Basin (西オーストラリア州) は、評価に向けた探鉱を実施。2006 年第 1 四半期に採掘開始の Adamson 鉱体 (Eneabba 鉱床) の評価継続。
- ・Douglas プロジェクト (Murray Basin) にて鉱山、湿式選鉱所・分離施設の建設。

## 7) Jubilee Mines N.L.

### (1) 財務状況

(単位:千 A\$)

	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	2006 1/四	コメント
収入	58,516	56,911	10,640	67,672	26,993	・特記事項なし
税引き前利益*1	29,775*1	19,843*1	142*1	25,836	9,155	
探鉱支出	6,275	7,221	N.D.	N.D.	N.D.	

\*1)売上から諸費用を差引いたもの

### (2) 生産状況

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	2006 1/四	コメント
ニッケル精鉱 (dmt)	11,533	13,517	12,704	14,410	13,928	・2006年第1四半期は、全ての生産拠点で堅調な生産を継続

### (3) 探鉱・開発状況

- ・Cosmos 鉱山の Alec Mairs 下部探鉱実施(幅 3.05m・20.24%Ni, 幅 1m・13.72%Ni, 幅 1.71m・5.21%Ni,幅 3.77m・9.7%Ni)。
- ・Prospero 鉱床の資源量(measured, indicated and inferred)60,500tNi 増加。
- ・低品位の鉱化作用が確認された Anomaly 9 鉱床の鉱染状硫化ニッケル・プロジェクトは探鉱継続。
- ・Bannockburn 塊状硫化物ニッケル・プロジェクトは探鉱延長継続。
- ・Helene 鉱山の開発計画の検討継続。
- ・Cosmos 鉱山の生産増強の検討継続。
- ・Anomaly 1 鉱床開発の検討継続。

## 8) Lihir Gold Limited

### (1) 財務状況

(単位: 百万 A\$)

百万 US\$	2004 6 月末半期	2004 *1 12 月末半期	2005 6 月末半期	2005 *2 12 月末半期	コメント
収入	104.0	130.7	68.8	156.1	・2006 年第 1 四半期は、金価格上昇により記録的収入。 ・総販売量は貯鉱(プラント停止のための)により生産を上回る。
税引き後利益 *3	2.2	46.0	▲ 20.8	30.6	
探鉱費	3.2	2.1	4.1	2.1	

\*1 2004 年 12 月末までの 12 ヶ月分から、2004 年 6 月末までの 6 ヶ月分を差引いた数値

\*2 2005 年 12 月末までの 12 ヶ月分から、2005 年 6 月末までの 6 ヶ月分を差引いた数値

\*3 Net Profit before adjustments

### (2) 生産状況

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	2006 1/四	コメント
金 (千 oz)	101	130	193	172	184	・2006 年第 1 四半期は、採掘割合、高品位鉱石、金の高回収率により記録的な生産。 ・浮選能力拡張による操業停止し、年間 10 日間の遅れが生じるため計画を上回るペースで生産。
金品位 (g/t)	4.41	4.41	7.15	8.54	6.31	

### (3) 探鉱・開発状況

- ・Lihir 島の北西部での初期探鉱と Kapit 鉱体、Minifie 鉱体 (infill drilling) の探鉱を重点的に実施。
- ・2006 年第 1 四半期実施のボーリングで地熱源を把握。
- ・ショベル・トラック・積出し船の改善。
- ・Lienetz 開発第 7 フェーズにより高品位鉱石のプラントへの供給は 2006 年末予定。
- ・Lihir Gold 社は、規模拡張のためのオプションを検討(磨鉱・浮選能力、オートクレーブの導入による酸素製造能力の増強)。最もコスト面で効率的・効果的な方法の調査を実施。

## 9) Minara Resources Limited

### (1) 財務状況

(単位:千 A\$)

	2004 6 月末半期	2004 12 月末半期	2005 6 月末半期	2005 12 月末半期	コメント
収入	171.6	197.9	183.9	177.5	・特記事項なし
営業利益	115.8	67.1	17.6	26.4	

### (2) 生産状況

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	2006 1/四	コメント
ニッケル (t)	5,172	2,842	4,256	4,674	4,381	・硫酸プラントの問題と3月末のサイクロン Glenda の影響によるガスの制限の影響で生産は減少。
コバルト (t)	323	141	286	301	299	

### (3) 探鉱・開発状況

- ・Irwin Hills 地区の Coglia Well ニッケル・ラテライト JV は、第1ステージのボーリング終了。資源量(indicated、inferred)は、12.3 百万 t・1.07%Ni・0.14%Co(カットオフ 0.8%Ni、高品位部 4.5 百万 t・1.29%Ni・0.19%Co(カットオフ 1.1%Ni)を含む)。
- ・能力 200,000t/年のヒープリーチング・プラントのエンジニアリング等工事実施。順調な進捗。2006 年 12 月半ばには生産開始の見込み。鉄を除去する試験は目標値を達成。

## 10) Newcrest Mining Limited

### (1) 財務状況

(単位: 百万 A\$)

	2004 *1 6 月末半期	2004 12 月末半期	2005 *2 6 月末半期	2005 12 月末半期	コメント
収入	396.4	396.5	589.0	696.0	・2005 年 12 月末半期、前年度同期 76%増加。 Telfer 鉱山の生産が寄与。
税引き後利益	84.5	51.6	84.5	74.2	
探鉱支出	16.7	20.8	18.4	25.1	

\*1 2004 年 6 月末までの 12 ヶ月分から、2003 年 12 月末までの 6 ヶ月分を差引いた数値

\*2 2005 年 6 月末までの 12 ヶ月分から、2004 年 12 月末までの 6 ヶ月分を差引いた数値

### (2) 生産状況

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	2006 1/四	コメント
金 (oz)	319,511	339,497	337,505	430,009	367,790	・二次富化体の露天採掘における品位等の変化 に対し、契約上の銅品位の維持、砒素鉱物を抑 制するため、ならびに、鉱石処理が計画を下回っ たため生産は減少。
銅 (t)	26,354	30,073	25,142	28,325	23,219	

### (3) 探鉱・開発状況

- ・Kencana 地区の延長(Gosowong District JV)で実施したボーリングは、K1 鉱化作用を把握。幅 6m・20g/tAu (幅 2.6m・11g/t Au を含む)。
- ・Cracow JV(Kilkenny 構造線)のボーリング(Infill drilling)は高品位部を捕捉、幅 9.3m・21g/t Au(幅 2.9m・40g/t Au を含む)。
- ・Telfer 鉱山(西オーストラリア州)はサブレベルでの生産開始。2007 年 3 月には 4 百万 t/年 に達する計画。鉱山の排水・排気系は導入完了。
- ・Kencana 鉱床斜坑は 512m まで掘削。鉱床最上部に到達。3 月 24 日坑内採掘開始。

## 11) Oxiana Limited

### (1) 財務状況

(単位:千 A\$)

	2004 通年度	2005 6月末半期	2005 通年度	2006 6月末半期	コメント
営業収入	76,029	87,593	432,559	N.D.	・2006年第1四半期末、現金・短期預金 A\$81.4 百万
税引き後利益	▲ 8,814	17,288	80,302	N.D.	
探鉱支出	5,750	4,269	10,755	N.D.	

\*1 2004年12月末までの12ヶ月分から、2004年6月末までの6ヶ月分を差引いた数値

\*2 2005年12月末までの12ヶ月分から、2005年6月末までの6ヶ月分を差引いた数値

(単位:千 A\$)

	2004 6月末半期	2004 *1 12月末半期	2005 6月末半期	2005 *2 12月末半期	コメント
収入	41,924	31,710	87,593	344,966	・2006年第1四半期末、現金・短期預金 A\$81.4 百万
税引き後利益	20,787	▲29,592	17,288	63,014	
探鉱支出	3,442	2,308	4,269	6,486	

\*1 2004年12月末までの12ヶ月分から、2004年6月末までの6ヶ月分を差引いた数値

\*2 2005年12月末までの12ヶ月分から、2005年6月末までの6ヶ月分を差引いた数値

### (2) 生産状況

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	2006 1/四	コメント
金 (oz)	56,434	54,906	38,581	59,406	62,683	・低品位鉱探掘と探掘量減少で Sepon 鉱山(ラオス)の生産減少が、Golden Grove 鉱山(西オーストラリア州)の記録的な生産増加を相殺。
銅 (t)	—	7,355	15,760	17,859	17,008	・Sepon 鉱山の探掘は計画を上回るが、低品位と計画外の操業停止により、生産は前期比微減。
亜鉛(t)	—	—	17,554	22,214	39,455	・Golden Grove 鉱山の操業順調。亜鉛、HPMは記録的な生産。
銀 (oz)	—	—	—	—	973,665	

### (3) 探鉱・開発状況

- ・Sepon Gold 鉱山(資源量 165,000oz (3.3 百万 t・1.57g/tAu・カットオフ 0.5g/t Au)で Pha Vat North 鉱床の鉱量評価のため探鉱継続。
- ・Sepon Copper 鉱山周辺は、Thengkhamb North 鉱床で高品位鉱体の一部であることを確認。資源量確定のためのボーリング継続(infill drilling)。
- ・Golden Grove 鉱山では地表・坑内ボーリングを開始。予察の結果、亜鉛鉱化作用が深部へ続くことが判明。
- ・Prominent Hill 鉱床開発の決定を第3四半期に行うための F/S 調査(Bankable Feasibility Study)は計画通りの進捗。400人規模の宿泊場所は10月までには確保の予定。探掘・修復計画を南オーストラリア州政府へ提出。鉱量確認のボーリングと冶金試験を継続。



## 12) Perilya Limited

### (1) 財務状況

(単位: 百万 A\$)

	2004 *1 6 月末半期	2004 12 月末半期	2005 *2 6 月末半期	2005 12 月末半期	コメント
売上	105.9	83.3	115.1	123.4	・2004/05 年度通年の税引き後利益は、探鉱費の評価損 13.7 百万豪ドルを計上したことにより 4.7 百万豪ドルの損益となった。
税引き後利益	5.3	0.1	▲ 4.8	16.9	
探鉱支出	13.5 *3	N.D.	19.3 *4	N.D.	

\*1 2004 年 6 月末までの 12 ヶ月分から、2003 年 12 月末までの 6 ヶ月分を差引いた数値

\*2 2005 年 6 月末までの 12 ヶ月分から、2004 年 12 月末までの 6 ヶ月分を差引いた数値

\*3 2004 年 6 月末までの 12 ヶ月分の数値

\*4 2005 年 6 月末までの 12 ヶ月分の数値

### (2) 生産状況

(単位: 百万 A\$)

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	2006 1/四	コメント
亜鉛(kt)	32	32.6	37.3	33.4	36.6	・Broken Hill 鉱山の鉱石品位上昇と操業の一貫性向上により生産は前期比 10%増。
鉛(kt)	16.1	18.7	18.1	18.3	17.5	・生産量は歴史的に低品位の Northern Benches からの鉱石の影響により、生産量は前期比減。
銀(Moz)	0.51	0.56	0.49	0.54	0.54	
金 (oz)		4,827	3,730	7,208	6,123	・Daisy Milano 鉱山(西オーストラリア州)の低品位・採掘量減少のため、生産量は前期比減。

### (3) 探鉱・開発状況

- ・Flinders 鉱床プロジェクト(亜鉛・マンガン、南オーストラリア州)の資源量拡大と多金属回収のための冶金試験を実施。
- ・過去のデータをもとに、Mt Oxide 鉱床プロジェクト(銅、クィーンズランド州)の地質再解釈・探査計画策定。
- ・Little Broken Hill 鉱床(鉛・亜鉛、ニューサウスウェルズ州)、Moyagee (金、西オーストラリア州)のボーリング調査開始。
- ・Broken Hill 鉱山 Potosi 鉱床(ニューサウスウェルズ州)のプレ F/S は順調な進捗。2006 年半ばまでには次のステージへの決定がなされる予定。
- ・Broken Hill 鉱山 North Mine 鉱床(ニューサウスウェルズ州)の今後の見通し調査は近日中に完了予定。

### 13) Zinifex Limited

#### (1) 財務状況

(百万 A\$)

	2004/05 12 月末半期	2004/05 通年度	2005/06 12 月末半期	2005/06 通年度	コメント
収入	924.8	1917.4	1133.4	N.D.	・亜鉛価格の上昇から、業績好調。
税引き後利益	87.6	234.7	227.6	N.D.	

(百万 A\$)

	2004 *1 6 月末半期	2004 12 月末半期	2005 *2 6 月末半期	2005 12 月末半期	コメント
収入	N.D.	924.8	992.6	1,133.4	・亜鉛価格の上昇から、業績好調。
税引き後利益	N.D.	87.6	147.1	227.6	

\*1 2004 年 6 月末までの 12 ヶ月分から、2003 年 12 月末までの 6 ヶ月分を差引いた数値

\*2 2005 年 6 月末までの 12 ヶ月分から、2004 年 12 月末までの 6 ヶ月分を差引いた数値

#### (2) 生産状況

(鉱山生産は金属純分)

鉱種	2005 1/四	2005 2/四	2005 3/四	2005 4/四	2006 1/四	コメント
亜鉛 (鉱山生産)(t)	134,422	151,442	146,106	153,364	147,766	・Century 鉱山(クィーンズランド州)は、SAG 粉碎機の問題があり、2006 年第 1 四半期の生産は、前期比減であったが、前年同期比増。 ・2 月の 2 日間の計画外の操業停止が影響。
鉛(鉱山生産)(t)	15,760	18,250	37,163	24,886	23,282	・Century 鉱山での鉛鉱石品位上昇により、生産は前年同期比増。
亜鉛(金属)(t)	156,047	161,241	154,341	161,343	143,871	・Hobart 製錬所(タスマニア州)は焙焼炉の問題で操業制約。生産は前年同期比、前期比とも減。焙焼炉は修復。
鉛(金属)(t)	64,857	62,688	54,811	66,792	64,543	・Port Pirie 製錬所(南オーストラリア州)の鉛生産は堅調。
合計	371,086	393,621	392,421	406,384	379,462	・2006 年第 1 四半期の地金・精鉱生産は、Hobart 製錬所での焙焼炉の計画されていた再建造ため前期比減となるが、前年同期比微増。

#### (3) 探鉱・開発状況

- ・Century 鉱山、Rosebery 鉱山(タスマニア州)、Menninnie Dam 鉱床(SA)にてボーリング継続、予察結果は 2006 年第 2 四半期。
- ・Century 鉱山は、Jameson 予備浮遊選鉱・洗浄工程の成績改良継続中。予備はく土作業のための機材搬入・インフラ整備により計画実施を加速化。3 年間ではく土の最適化検討。
- ・Rosebery 鉱山は、ISO14001:2004 を取得。
- ・Budel Refinery 精錬所(オランダ)の拡張計画(260,000 t/年)は予算内。2006 年第 2 四半期には承認の見込。

## 2. 中国企業

### 銅地金生産企業

(単位:t)

企業名	2005												1-12月計(注)
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
江西銅業集团公司 (Jiangxi Copper Co Ltd.)	33,486	38,575	35,971	40,476	38,232	39,845	34,187	38,738	41,024	39,510	37,176	34,360	451,586
銅陵有色金屬(集团)公司 (Tongling Nonferrous Metals Co.)	29,963	30,521	29,482	27,790	35,638	35,694	38,190	29,938	36,123	39,093	46,772	54,504	442,912
雲南銅業(集团)有限公司 (Yunnan Copper)	21,548	20,325	29,745	27,595	30,366	24,663	24,527	22,196	29,534	32,655	28,373	28,538	320,066
大冶有色金屬公司 (Daye Nonferrous Metals Co.)	15,434	13,461	14,957	10,942	15,612	15,099	15,862	15,232	13,142	14,783	16,597	16,307	177,428
金川集团有限公司 (Jinchuan Group Ltd.)	11,000	12,500	11,500	13,000	14,500	14,500	14,500	14,000	11,000	10,500	14,000	15,300	156,300

(注)1-12月計は、安泰科の12月の資料を基にしているため、各月の合計とは異なる場合がある。

企業名	2006				1-3月期 06/05
	1月	2月	3月	1-3月計	
江西銅業集团公司 (Jiangxi Copper Co Ltd.)	34,668	39,997	36,425	111,090	2.83%
銅陵有色金屬(集团)公司 (Tongling Nonferrous Metals Co.)	43,425	40,847	53,273	137,545	52.89%
雲南銅業(集团)有限公司 (Yunnan Copper)	19,823	39,865	19,401	79,089	10.43%
大冶有色金屬公司 (Daye Nonferrous Metals Co.)	18,416	15,693	16,655	50,764	15.76%
金川集团有限公司 (Jinchuan Group Ltd.)	15,500	16,500	15,000	47,000	34.29%

出典: 安泰科

### 亜鉛地金生産企業

(単位:t)

企業名	2005												1-12月計(注)
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
株洲冶煉集团有限公司 (Hunan Zhuye Torch Co. Ltd.)	18,870	22,194	29,833	28,410	30,782	30,590	28,777	24,295	22,438	30,716	31,531	28,342	326,778
葫蘆島有色金屬集团有限公司 (Huludao Nonferrous Metals Co., Ltd.)	19,673	19,096	20,791	20,520	20,978	20,736	21,579	22,113	19,508	19,253	19,523	21,791	245,561
深セン中金嶺南有色金屬株式会社 (Shenzhen Nonfemet)	13,059	11,615	12,709	13,417	13,222	14,482	14,092	14,588	14,819	12,832	13,177	11,579	159,591
白銀有色金屬公司 (Baiyin Nonferrous Metals Company)	6,003	13,821	11,577	12,940	12,135	13,618	10,699	4,001	11,262	9,059	13,501	12,490	131,106

(注)1-12月計は、安泰科の12月の資料を基にしているため、各月の合計とは異なる場合がある。

企業名	2006				1-3月期 06/05
	1月	2月	3月	1-3月計	
株洲冶煉集团有限公司 (Hunan Zhuye Torch Co. Ltd.)	18,900	42,601	35,987	97,488	37.51%
葫蘆島有色金屬集团有限公司 (Huludao Nonferrous Metals Co., Ltd.)	21,592	19,382	20,992	61,966	4.04%
深セン中金嶺南有色金屬株式会社 (Shenzhen Nonfemet)	0	1,414	N.D.	-	-
白銀有色金屬公司 (Baiyin Nonferrous Metals Company)	9,182	11,658	11,107	31,947	1.74%

出典: 安泰科

### 3. カザフスタン企業

#### 3-1 Kazakhmys

##### (1) トピックス

・3月14日、同社のVladimir Kim 会長がENRC社(Eurasian Natural Resources Corp.)との間で、ENRC社の株式25%を取得することに合意したと発表。Kim氏はKazakhmys社の会長職に留まりながらENRC社のボードメンバーを兼務する。Kazakhmys社は、ENRC社が組織改革途上の非上場企業であることを考慮し、Kim氏が取得する株式を対象として同氏とオプション契約を交わした。ENRC社の詳細は不明だが、カザフスタン有数の投資・産業グループEurasian Industrial Association(EIA)の傘下にあり、クロム産業(Kazchrome社)のほか、アルミニウム、マンガン、鉄鉱石、石炭などMining・Metal部門企業の資産を統括するとされる。

##### (2) 生産量

(金属純分)

	2005年 第1四半期	2006年 第1四半期	前年同期比
粗鉱(千t)	9,542	9,839	2.6
銅精鉱(千t)	96.8	95.0	-1.9
電気銅(千t)	95.4	89.1	-6.6
銅ワイヤロッド(千t)	1.3	5.3	307.7
亜鉛精鉱(千t)	22.6	39.2	73.5
亜鉛精鉱(千t)	17.1	18.2	6.4
金(oz)	20.1	35.1	74.6
銀(oz)	4,997	5,249	5.0

#### 3-2 Kazzinc

##### (1) 生産量

(金属純分)

	2004年 上半期	2004年 下半期	2005年 第1四半期	2005年 上半期	2005年 下半期
亜鉛精鉱(t)	174,000	185,200	N.D.	172,400	N.D.
亜鉛地金(t)	149,301	167,214	70,980	179,984	107,214
鉛精鉱(t)	16,500	16,300	N.D.	14,200	N.D.
鉛地金(t)	61,170	95,830	N.D.	63,689	24,907
銅精鉱(t)	N.D.	N.D.	16,300	N.D.	N.D.
粗銅(t)	N.D.	N.D.	956.5	N.D.	N.D.
鉛(t)	N.D.	N.D.	23,800	N.D.	(88,596)
金(kg)	N.D.	N.D.	1,590	N.D.	(5,300)
銀(t)	N.D.	N.D.	31.2	N.D.	(172.9)

( )内は情報未入手のため年間生産量  
出典:カザフスタン国家統計庁

## VI. 主要国、主要鉱山の生産統計

### 1. 主要国の生産統計

#### (1)-1 チリの銅生産量

(単位:t、金属純分)

	2005												年計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
銅生産量	431,072	365,494	446,370	406,685	454,720	411,802	420,003	474,150	434,058	455,850	476,843	552,676	5,329,723
電解銅	167,019	164,762	207,006	189,655	194,919	176,072	184,796	232,194	179,968	191,997	197,785	208,879	2,295,052
精鉱	238,042	188,426	231,303	195,995	238,538	218,710	223,679	261,649	233,286	237,534	245,161	305,314	2,817,637
その他	26,011	12,306	3,120	3,098	21,263	17,020	-	-	-	3,972	-	-	217,034

	2006			
	1月	2月	3月	1-3月計
銅生産量	418,929	390,125	440,412	5,329,723
電解銅	188,827	169,181	190,127	2,295,052
精鉱	237,534	213,367	231,789	2,817,637
その他	4,638	7,577	18,496	217,034

出典:チリ統計局

#### (1)-2 チリの銅輸出額

(単位:百万ドル)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計
1996	479.9	512.0	524.0	512.4	585.6	537.5	579.9	415.1	427.3	479.9	469.6	505.4	6,028.6
1997	618.2	611.6	658.5	615.6	551.9	591.0	505.2	473.6	512.0	578.2	470.2	460.6	6,646.6
1998	381.8	454.7	516.0	408.9	438.6	470.3	474.1	432.1	408.0	378.8	409.0	425.1	5,197.4
1999	433.7	400.3	422.4	530.8	506.0	531.3	453.6	477.8	594.2	544.6	548.1	583.6	6,026.4
2000	577.7	527.1	711.0	437.5	723.0	545.7	678.1	691.5	552.1	701.4	545.5	594.1	7,284.7
2001	672.4	564.6	530.7	593.6	576.9	507.1	495.0	628.6	433.9	571.5	484.8	477.6	6,536.7
2002	583.7	500.0	511.8	549.5	518.4	655.5	471.5	462.9	398.9	609.3	567.6	494.1	6,323.2
2003	702.7	559.2	510.5	594.4	574.0	630.5	639.1	675.1	606.7	788.8	763.8	770.5	7,815.3
2004	835.8	897.3	1,398.6	1,224.9	1,387.6	1,007.3	1,213.1	1,384.1	1,003.1	1,472.1	1,034.7	1,624.1	14,482.7
2005	1,251.1	1,027.8	1,689.5	1,375.9	1,263.5	1,648.8	1,435.8	1,660.6	1,654.1	1,592.6	1,865.5	1,840.4	18,305.6
2006	1,617.1	1,629.6	2,754.8										6,001.5

出典:チリ中央銀行

#### (1)-3 チリのもリブデン輸出額

(単位:百万ドル)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計
1996	26.0	20.1	16.5	20.7	16.1	18.9	20.8	17.3	17.8	16.5	16.8	16.1	223.6
1997	18.7	16.0	16.8	17.1	15.5	19.8	21.7	23.2	18.0	24.0	21.6	19.7	232.1
1998	17.7	18.5	22.3	13.9	18.7	19.0	15.2	16.4	16.5	19.2	11.3	14.7	203.4
1999	17.5	11.8	17.9	12.1	14.6	10.6	16.8	11.4	13.6	14.5	14.2	12.1	167.1
2000	16.6	14.0	16.7	11.4	14.5	11.8	15.6	18.2	12.2	18.1	14.9	14.8	178.8
2001	18.1	7.6	13.5	12.9	15.2	15.9	14.6	19.4	8.8	21.0	14.1	13.5	174.6
2002	18.5	12.6	20.3	19.1	18.3	23.6	26.1	25.3	23.0	27.1	17.0	14.8	245.7
2003	26.1	15.2	24.9	26.8	21.8	24.7	23.8	23.8	33.7	47.6	45.0	39.6	353.0
2004	69.1	52.7	73.9	63.8	102.7	89.5	153.9	135.3	152.2	152.2	220.4	170.6	1,436.3
2005	221.2	191.0	311.6	310.1	274.0	354.5	353.4	255.6	218.6	270.7	273.6	238.7	3,273.0
2006	284.1	116.8	350.1										751.0

出典:チリ中央銀行

## (2) ペルーの鉱産物生産量

(単位:t)

鉱産物	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2005年 第1四半期	前年 同期比
銅	242,998	238,918	252,995	274,987	257,025	+5.7%
金	44,473	44,049	53,765	65,333	52,382	+17.8%
亜鉛	310,213	304,471	312,658	274,215	269,948	-13.0%
鉛	77,364	75,706	82,538	83,709	70,144	+9.3%
銀	783.72	772.28	795	840.94	799.530	+2.0%
錫	10,160	10,648	10,630	10,706	10,047	-1.1%
モリブデン	4,250	4,075	4,366	4,634	4,481	+5.4%

出典:ペルーエネルギー鉱山省

## (3) ボリビアの鉱産物生産量

(単位:t)

鉱産物	2005年 上半期	2005年 下半期	前年 同期比
亜鉛	75,676	82,906	+8.6%
錫	8,843	9,590	+1.9%
銀	202	217	+5.9%

出典:ボリビア鉱業冶金省

## (4) メキシコの鉱産物生産量

鉱種	2005												年計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
金(kg)	2,310	2,242	2,357	2,496	2,778	1,438	3,535	2,490	2,452	3,017	3,007	3,070	31,192
銀(kg)	248,333	222,463	178,397	240,033	276,334	260,129	295,779	246,458	287,509	292,969	280,245	304,715	3,133,364
銅(t)	30,014	27,107	28,970	27,992	34,763	33,035	28,002	31,943	33,288	32,007	29,322	29,035	365,478
鉛(t)	13,735	11,754	9,840	13,508	11,232	10,836	14,012	13,529	11,572	14,952	13,474	13,662	152,106
亜鉛(t)	36,395	32,251	38,115	24,649	31,555	30,404	35,406	37,396	37,237	39,801	38,947	38,164	420,320

鉱種	2006			
	1月	2月	3月	1~3月計
金(kg)	2,962	2,365	2,649	7,976
銀(kg)	281,531	201,252	227,762	710,545
銅(t)	30,288	28,970	32,593	91,851
鉛(t)	14,337	12,208	8,607	35,152
亜鉛(t)	30,913	38,115	29,357	98,385

出典:メキシコ国立統計地理情報院

## (5) 中国の鉱産物生産量

(単位:t)

鉱産物	2005												1-12月計(注)
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
銅精鉱(t)	64,447	37,503	68,384	58,132	56,516	64,110	38,792	54,124	56,538	56,231	63,070	56,896	689,522
銅地金(t)	177,093	180,218	190,108	192,426	222,376	212,345	205,268	203,043	217,558	226,114	247,587	251,450	2,533,204
鉛精鉱(t)	32,924	37,332	42,604	42,604	52,015	62,833	54,106	65,844	56,072	51,761	62,520	59,943	627,101
鉛地金(t)	148,408	142,729	165,770	165,770	190,496	207,393	187,948	232,036	217,467	229,082	225,030	220,905	2,333,868
亜鉛精鉱(t)	100,592	135,174	139,585	139,585	143,535	171,728	153,709	151,507	162,390	167,231	194,554	173,610	1,831,490
亜鉛地金(t)	188,496	190,397	215,177	215,177	221,701	224,392	213,085	239,900	215,625	227,964	247,126	265,783	2,671,706
ニッケル(t)	1,194	8,774	6,561	6,961	7,670	8,179	8,024	8,183	5,592	7,034	8,314	8,204	91,412

(注)1-12月計は、安泰科の12月の資料を基にしているため、各月の合計とは異なる場合がある。

鉱産物	2006				1-3月 06/05
	1月	2月	3月	1-3月計	
銅精鉱(t)	64,891	43,969	53,522	162,382	-4.7%
銅地金(t)	221,246	237,076	232,848	691,170	26.3%
鉛精鉱(t)	37,553	42,918	51,330	131,801	16.8%
鉛地金(t)	170,888	206,096	255,433	632,417	38.4%
亜鉛精鉱(t)	98,501	165,146	170,292	433,938	15.6%
亜鉛地金(t)	185,394	238,653	260,079	684,126	15.2%
ニッケル(t)	7,197	9,512	7,861	24,570	48.6%

出典:安泰科

## (6) カザフスタンの鉱産物生産量

(単位:t)

鉱産物	2004年 上半期	2004年 下半期	2005年 上半期	2005年 下半期	2006年 第1四半期	前年 同期比
銅	218,549	228,591	210,984	207,816	91,956	-8.9%
亜鉛精鉱	174,000	185,200	172,400	184,507	93,371	-1.3%
亜鉛地金	149,301	167,214	179,984	176,923	N.D.	-
鉛精鉱	N.D.	N.D.	70,835	70,704	31,620	-16.3%
鉛地金	61,170	78,828	63,689	53,662	N.D.	-
アルミナ	721,867	698,127	746,491	758,809	386,589	4.5%
金	4.755	5.2	4.7	5.1	2.1	-4.2%
銀	339.3	478.0	404.7	408.0	139.9	-0.5%

出典:カザフスタン国家統計庁(生産量)

## 2. 主要鉱山の生産統計

### Grasberg 鉱山

鉱産物	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
銅(t)	177,000	158,400	179,100	251,600	111,900
金(oz)	763,900	727,400	590,700	1,357,600	470,700
銅品位(%)	1.14	0.98	1.06	1.31	0.72
金品位(g/t)	1.62	1.43	1.16	2.33	0.92

(出典:Freeport McMoran HP)

### Morenci 鉱山

鉱産物	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
電気銅(千t)	92.1	103.0	102.1	102.8	93.9

(出典:Phelps Dodge HP)

### Antamina 鉱山

鉱産物	2005年 第1四半期	2005年 第2四半期	2005年 第3四半期	2005年 第4四半期	2006年 第1四半期
銅(千t)	91.9	91.8	86.6	104.3	101.2
亜鉛(千t)	59.8	54.2	55.2	15.1	26.3
銅品位(%)	1.41	1.4	1.3	1.37	1.47
亜鉛品位(%)	1.16	1.1	1.0	0.47	0.61

(出典:Teck Cominco HP)



平成 18 年度情報収集事業報告書 第 2 号

## クォーターリー・レビュー

—非鉄メジャーの 2006 年第 1 四半期動向—

---

平成 18 年 7 月 発行

発行：独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

金属資源開発調査企画グループ

〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町 1310 番

電話：044-520-8590 FAX：044-520-8750 E-mail：mric@jogmec.go.jp

[http://www.jogmec.go.jp/mric\\_web/](http://www.jogmec.go.jp/mric_web/)

印刷：株式会社 サンワ

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-11-8

電話：03-3265-1816（代）

---